Golden Days Abroad

in Derbyshire

～ 姉妹都市 英国ダービーシャーを訪ねて ～

第８回ダービーシャー高校生派遣　帰国報告書

2025. 3

目　次

■はしがき　1

■ダービーシャー派遣生徒・引率教員・受入家庭名簿　2 – 3

■派遣日程・研修等の日程　4

■滞在中の当番日記　5 – 12

■ホストファミリー紹介・派遣を終えて　13 – 42

■英語感想文　43 – 50

■ダービーシャー高校生派遣事業資料　51 – 52

はしがき

豊田市長　太田　稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、１９８９年にトヨタ自動車株式会社の現地法人が南ダービーシャー市バーナストン地区に設立されたことをきっかけに交流を開始し、１９９８年１１月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

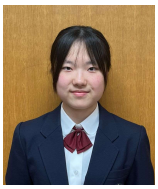
ダービーシャー高校生派遣事業は、バートン・アンド・サウスダービーシャーカレッジでの学校生活の体験、語学研修、現地学生との交流、ホームステイ等のプログラムを通して、豊田市と同校の友好及び相互理解を深め、国際感覚を持った人材を育成することを目的に、２０１４年度から開始しました。２０１９年度以降、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延等により、派遣を中止せざるを得ない時期が続きましたが、その間もオンラインでの交流を実施するなど、相互の繋がりを育んできました。

８回目となる今回の派遣事業は、市内高等学校及び高等専門学校に通う生徒１２名を１２日間の日程で派遣しました。本報告書は、現地で多様な価値観を持つ人々と出会い、悩みや不安を抱えながら自ら一歩踏み出した経験や、派遣生活を通して新たに芽生えた夢や目標について、生徒一人ひとりが書き記したものです。多くの市民の皆様に読んでいただき、姉妹都市ダービーシャーの魅力、当派遣事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

また近年、本市における外国籍住民は増加・多国籍化の傾向にあり、地域社会においても様々な文化的背景を持つ人々が暮らしています。派遣生の皆さんには、今回の派遣を通じて多様な文化に触れ、言葉や考え方の違いを乗り越えて対話した経験を活かし、今後、本市の国際化を担う存在として地域における円滑なコミュニケーションや相互理解の促進に貢献していただくことを期待しています。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力を賜りましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださったバートン・アンド・サウスダービーシャーカレッジ、ホストファミリー、ダービーシャーの皆様に心から感謝申し上げます。

派遣生徒・受入家庭名簿

氏　　名	学校・学年	受 入 家 庭
派遣生徒 川上　彰斗 Akito Kawakami	豊田工業高等専門学校 ２年	The Phillips Family
派遣生徒 村瀬　七海 Nanami Murase	豊田西高等学校 ２年	The Rowe Family
派遣生徒 山野　快和 Kokowa Yamano	豊田東高等学校 １年	The Rowe Family
派遣生徒 藤沢　愛音 Aine Fujisawa	猿投農林高等学校 ２年	The White Family
派遣生徒 佐藤　志樹 Motoki Sato	松平高等学校 １年	The Mortimer Family
派遣生徒 鈴木　美羽 Miu Suzuki	豊田工科高等学校 ２年	The White Family
派遣生徒 藤谷　柚子穂 Yuzuho Fujitani 	足助高等学校 ２年	The Kinnard Family
派遣生徒 山本　裕菜 Yuna Yamamoto	豊田北高等学校 １年	The Kinnard Family
派遣生徒 石倉　響姫 Hibiki Ishikura	豊田高等学校 ２年	The Henchcliffe Family

派遣生徒・受入家庭名簿

氏　　名	学校・学年	受 入 家 庭
派遣生徒 永田　有沙 Arisa Nagata	豊野高等学校 ２年	The Henchcliffe Family
派遣生徒 近藤　美空 Misora Kondo	杜若高等学校 ２年	The Rowe Family
派遣生徒 光岡　絵麻 Ema Mitsuoka	豊田大谷高等学校 ２年	The Allen Family

引率教員・受入家庭名簿

氏　　名	勤務先	受 入 家 庭
引率教員 後藤　次郎 Jiro Goto	豊田西高等学校	The Phillips Family

派遣日程

令和７年３月１４日（金）～２５日（火）　１２日間

	活　動　内　容
14 日（金）	中部国際空港（キャセイパシフィック航空　539 便）⇒ 香港国際空港
15 日（土）	香港国際空港（キャセイパシフィック航空　219 便）⇒ マンチェスター空港 マンチェスター空港（バス）⇒ バートン・アンド・サウスダービーシャーカレッジ（BSDC） ホームステイ開始
16 日（日）	ホストファミリーと過ごす
17 日（月）	オリエンテーション、英語講座、バートン市内散策
18 日（火）	英国料理（アフタヌーンティー）体験、日本食紹介 クリエイティブ・メディア・ワークショップ（デジタルアート）
19 日（水）	英国トヨタ自動車訪問・バーナストン工場見学 リッチフィールド散策
20 日（木）	英語講座、派遣中の体験等まとめ・発表 カルチャーショー・日本文化紹介 姉妹都市関係者、ホストファミリー、BSDC 学生・教員等との交流・夕食会
21 日（金）	チャッツワースハウス見学 ダービーシャー県庁　表敬訪問
22 日（土）	ホストファミリーと過ごす
23 日（日）	ホストファミリーと過ごす
24 日（月）	BSDC（バス）⇒ マンチェスター空港 マンチェスター空港（キャセイパシフィック航空　216 便）⇒ 香港国際空港
25 日（火）	香港国際空港（キャセイパシフィック航空　236 便）⇒ 中部国際空港

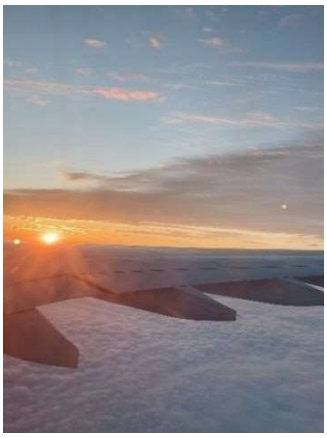
研修等の日程

令和６年	６月　７日（金）	派遣生徒選考依頼
	８月１９日（月）	派遣生徒決定
	１２月　７日（土）	派遣ガイダンス（保護者同伴、派遣日程・渡航説明等）
	１２月２１日（土）	第１回事前研修会
令和７年	１月２５日（土）	第２回事前研修会
	２月２２日（土）	第３回事前研修会
	３月２７日（木）	帰国報告会（市長・市議会議長出席）

滞在中の当番日記

３月１４日（金）～２５日（火）

3月１４日（金）・１５日（土）



いよいよ出国の日が来ました。期待に胸を膨らませる一方、現地で上手くやっていけるのかと、不安も抱えながら、大きなスーツケースを手に中部国際空港に集まりました。家族に見送られて、税関を通った後、5 時間かけて香港へ向かいました。実際は、不安よりも楽しみが大きかったのか、あっという間に時間は過ぎ、到着した広い空港でお土産屋さんを見て回ったり、機内でもらったトランプをして楽しみました。そして、長い乗り継ぎ時間を経て、イギリスのマンチェスターへと向かいましたが、先程とは違った 14 時間ものフライトにみんな疲労困ぱいでした。マンチェスターに到着後、BSDC の方に迎えられ、遂にイギリスに来たんだという実感が湧き、先程の疲れもどこかに消えていくようでした。バスでの移動を終えるとそれぞれのホストファミリーが待ってくれていました。車に乗るとマザーがたくさん話しかけてくれて、不安だった私たちを温かく迎え入れて下さいました。大学まではバス通学だったのでマザーがバス停を教えてくれたり、周りでショッピングができるところを教えてくれました。その後、白鳥に餌をやって散歩をし、家に帰ってフィッシュ＆チップスを食べながら映画を見て、とても楽しい時間を過ごしました。その日は、みんな疲れていたのでマザーが早く寝ていいよと言ってくれて、それぞれベッドへ向かい、これからの生活に心を躍らせて 1 日を終えました。【村瀬　七海】

3月１６日（日）

イギリスのいろいろな場所を訪れました。まず訪れたのはイギリスの伝統的な運河です。この運河では水位を上下させて船を通すという技術が使われており、その仕組みにとても興味を持ちました。実際に見てみると、昔ながらの技術が今も生き続けていることに驚かされました。その後、National Memorial Arboretum に訪れました。ここではさまざまな展示を見学しながら戦争や平和に関する深いメッセージを受け取ることができました。特に、命の尊さや平和の大切さを改めて感じることができ、非常に心に残る経験でした。その後の夕食では、Elaine さん特製のガモンをいただきました。コーラで煮込んでいると聞いて、少し甘いのではないかと思いましたが、甘みはなくむしろコーラによって肉のうまみが引き出されており、想像以上に美味しかったです。ガモンはしっとりとした食感でうま味が増し、とてもおいしかったです。こんなに美味しい料理を食べることができ本当に幸せでした。全体的にこの日の体験を通じてイギリスの伝統や文化、そして食に触れることができとても貴重な時間を過ごしました。【川上　彰斗】

この日は、ホストファミリーと会って二日目で、丸１日ホストマザーと過ごしました。朝起きると、とても晴れていて、ホストマザーが「散歩に行ったら良いかも」と教えてくれたので、朝ご飯を作ってもらっている間に近所を散歩しました。イギリスの住宅は、全てレンガ造りでとても日本では見ないような綺麗なところばかりで、感動しました。朝ご飯の後、ホストマザーと一緒に地下鉄に乗り、バーミンガムにある Bulling&Grand Central という大きなショッピングモールに行きました。初めての地下鉄でしたが、切符や乗り方を見せながら教えてくれたので目的地までたどり着くことが出来ました。イギリスの電車は、スマホで QR コードをかざして改札口を通る方法で、電車の中に犬が乗っていたりトイレがあったりして、日本とは大きく違っていたので驚きました。ショッピングモールは、とても大きな場所で、たくさんのお土産を買うことが出来ました。イギリスに住んでいる人たちの身近な物を見てこれて嬉しかったです。夜ご飯はみんなで作ったラタトゥイユを食べました。聞きながら一緒に作ることでより親しくなったり、英語にもなれていくことが出来たので、とても良かったです。【山野　快和】

３月１７日（月）

この日は初めて BSDC に登校しました。まず校長先生の話があり、その次に生徒証明書を作りました。この際に時間があったので、BSDC の学生やスタッフの方々、英語の先生のジョン先生と写真を撮りました。最初は緊張しましたが、和やかな雰囲気でだんだんとリラックスすることができました。最初にいた学生は３人で、午後からもう１人加わりました。その後、ジョン先生の English session を受けました。チームで協力してプリントを完成させたり、好き・嫌いの度合いに応じた言い方、kahoot というアプリを使って at、in、on のつけ方などについて学びました。昼食は食堂で食べ、その後、学生に図書館へ案内してもらいました。この時にもう１人学生が増えて一緒に話しました。最初は何を話せばいいのかわからなくて無言になってしまうこともありましたが、途中でクッキーを食べ、そこから簡単な質問からし始め、少しお話ししました。また、学校終わりには、学校周辺を散策しました。その後さらに時間があったためショッピングをしました。夜ご飯では日本では経験のないザクロののったサラダを初めていただき、食後にはプロフィットロールというデザートがでてきて、どれもおいしかったです。【藤沢　愛音】

３月１８日（火）

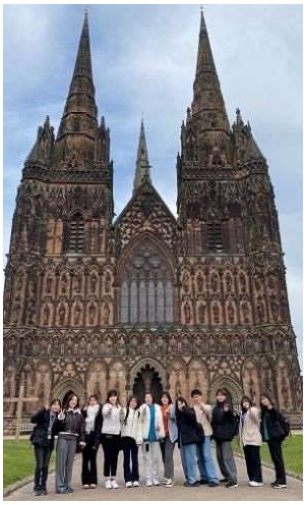
今日は英国料理・アフタヌーンティー体験、日本食文化紹介、クリエイティブ・メディア・ワークショップを行いました。まず、英国料理・アフタヌーンティー体験をしました。紅茶とお菓子を一緒に食べるために、作る班とテーブルをセッティングする班の２つに別れました。僕はテーブルセッティングの班に入りました。セッティングの仕方などが何も分からなかったけど、BSDC の学生達に教えてもらいました。テーブルセッティングを終え時間が余っており、その時にラテを作りました。僕はラテを作ったことがなかったのですごく新鮮な気分で楽しめました。日本食文化のテーマは「味噌」についてで、みその作り方、歴史、どのような料理で使うかなどを紹介しました。

アフタヌーンティーが終了した後に BSDC の学生達とクリエイティブ・メディア・ワークショップという授業を受けました。難しく書かれていますが、簡単に言えば写真の授業です。自分たちで撮る場所はポーズなどを決め自分たちだけの写真を撮ることができ楽しかったです。撮った写真を見た時にあまりの綺麗さに驚いたのは今でも覚えています。16 時 30 分に終了し、ホストファミリーの家に帰宅しました。夜ご飯を食べている時にBSDCであったことなどを話しました。この日はイギリス文化であるアフタヌーンティーを体験でき楽しかったです。

【佐藤　志樹】

３月１９日（水）

今日は BSDC に集まった後、バスで英国トヨタ自動車（TMUK）へ向かいました。まず、TMUK の従業員であるマンディーさんと友渕さんから、これまでの事業の歩みや今後のビジョンについて説明を受けました。友渕さんの説明を聞いてこの人は心底車好きである事が伝わってきました。その後、自動車の組立ラインを間近で見学しました。右耳に無線を付けて左耳には耳栓をし、騒音の中説明を受けました。プレートの厚さが 0.6mm あることを知り、驚きました。また、工場内で父の勤めている会社の名前を見つけ、さらに驚きました。工場見学の後は、TMUK の研修生たちと昼食を共にしました。同世代の研修生がそれぞれの夢や目標に向かって努力している姿に触れ、私にとっても自分の将来を思い描く刺激的な時間となりました。



TMUK 訪問後はリッチフィールドへ移動し、街の中心にある大聖堂を見学しました。建物外部の精巧な彫刻や内部のステンドグラスの美しさにとても魅了されました。建物自体が非常に大きく、みんなで写真を撮ろうとしても全体が写らず、建物から離れないと撮れないほどでした。その後の自由時間では、すべて手作りの商品を扱うお店に入りました。イースターが近かったこともあり、卵のデザインが施された商品がたくさん並んでいて、とても可愛かったです。【永田　有沙】

３月２０日（木）

午前中はジョン先生の授業でした。そこではお金の数え方やレストランでの注文の仕方、日本文化についての紹介のプレゼンテーションの準備をしました。お金の数え方を学ぶとき Kahoot!というサイトを使って楽しく学ぶことができました。ジョン先生は「ネイティブはすごく早く値段を話すのでしっかりと聞くことが大事」と言ってくださりました。レストランでの注文の仕方を学んだ際にはペアを作ってデモンストレーションをすることで分かりやすくしっかりと理解することができました。その後、私たちは BSDC の生徒に日本文化の紹介をしました。BSDC の生徒からもイギリスについて紹介していただきました。

午後はカルチャーショーをしました。カルチャーショーはホストファミリーの方々が来場してくださり、にぎやかになりました。カルチャーショーの前に、午前中の日本文化の紹介が良かったということで、ホストファミリーの方々の前でも発表を行いました。そのあとに校長先生から修了証をいただきました。カルチャーショーは、かるた、福笑い、書道の３つのブースに分かれて行いました。どのブースも楽しそうでした。カルチャーショーの後、ホストファミリーの方々とともに夜ご飯を食べました。たくさんの関わりができました。【藤谷　柚子穂】

３月２１日（金）

ジャムがたっぷり塗られたトーストを 2 枚、美味しくいただき、8 時過ぎに家を出発しました。今日の一番の目的地は、ずっと楽しみにしていたチャッツワースハウスです。門をくぐった瞬間から、その壮大さに圧倒されました。中に入ると、もうそこは家というより美術館でした。美しい絵画や迫力のある彫刻作品が所狭しと展示されていて、本当に面白かったです。写真撮影 OK なのが嬉しくて、あちらこちらでたくさん写真を撮りました。 お昼は、BSDC が用意してくれたサンドイッチとバナナを、友達とチャッツワースハウスの庭園でピクニック気分で食べました。広大な庭をのんびり散歩していると、なんと迷路を発見しました。初めての体験で、出口を探すのに頭をフル回転させてみんなと迷いながらゴールを探すのがすごく楽しかったです。自由時間には、少し足を伸ばしてチャッツワースハウスの正面へ行きました。目の前に広がる噴水が、太陽の光を浴びてキラキラと輝いていて、とっても涼やかで綺麗でした。

午後は県庁へ行きました。最初は少し緊張したけど、そこにいた皆さんが本当に優しくて、すぐにリラックスできました。お部屋に通された時には、特別な水と可愛いお菓子を用意してくれていて嬉しかったです。その部屋には、日本の兜や日本人形など、日本に関するものがいくつか飾られていました。入ってすぐの廊下には、日本との交流の歴史を示す文書や、輝いているトロフィーのようなものが大切に飾られていて、なんだか誇らしい気持ちになりました。 県庁の周りを散策していると、なんとリスに 3 回も遭遇しました。ちょこちょこ動き回る姿が可愛くて、生まれて初めて生でリスを見られて、すごく嬉しかったです。イギリスの景色は、日本と違ってどこまでも広がるような見晴らしの良さで、空に浮かぶ雲も立体的に見えて、本当に印象的でした。

夕方、ホストマザーと一緒に近所のパブへ行きました。イギリス名物のフィッシュアンドチップスを初めて食べましたが、揚げたての魚がホクホクで美味しかったです。ホストマザーと色々な話もできて、本当に楽しくてあっという間の一日でした。【石倉　響姫】

３月２２日（土）

今日はホストファミリーと過ごす最後の週末だったということもあって、ホストマザーがいろんなところに連れて行ってくれました。最初にイギリス伝統の朝食が食べられるカフェに行き、ホットココアとイングリッシュブレックファーストを食べました。その後カフェの近くでやっていた、地元の人に人気のマーケットに行きました。そこでは、ハンドメイドのものや、デザート、アクセサリーなど多種多様なものが売っていました。買い物をマーケットで楽しんだ後は、大きなフィッシュアンドチップスを頼んでみんなで食べました。次に、TESCO というスーパーに買い出しに行きました。そこでお土産のお菓子や夜ご飯の材料を買いました。家に帰って少し休んだ後はルームメイトの子が日本食を一緒につくろうと材料を持ってきてくれたので、ホストマザーと一緒に作りました。おにぎり、卵焼き、生姜焼き、みそ汁を作って食べました。夜ご飯を食べたあとは、車で 30 分くらいのところにあるコミュニティホールに行き、1 つ 30 分ほどの短い劇を三本見ました。劇の間には、景品をかけてみんなで抽選会をやったり、ジュースやお菓子を食べたり、近くにいる人と喋ったりして地域の人との交流を深めました。【鈴木　美羽】

３月２３日（日）

イギリスでの最後の休日、いつもより早めに起きて、朝ごはんにオーツ麦ポリッジを食べました。初めて食べましたが、とても美味しかったです。午前はホストマザーと一緒に広い公園を散歩しに行きました。とても自然豊かな場所で、羊や鹿、兎などの動物を見たり、川を見たりしました。また、戦時中に築かれた大きな屋敷や教会も見ました。散歩中にホストマザーがたくさんの話をしてくれましたが、だいぶ耳も慣れてきて聞き取れることが増えたのでとても嬉しかったです。

家に帰ったらブレックファーストとランチの間に食べるブランチを食べました。この時は、紅茶とアルフォートをだしてくれました。午後には車で 30 分程かかるショッピングセンターに連れて行ってくれました。2 時間程自由行動をさせてくれて、お土産をたくさん買いました。全て英語なのでレジで聞き取れなくて困ったこともありましたが、友達と助け合いながら、なんとか楽しくショッピングできました。

夜ご飯にはラザニアを、デザートにアイスクリームを食べました。笑みが溢れるほど美味しかったです。イギリス最後の日でとても寂しい気持ちではありましたが、だからこそ悔いを残さないよう、たくさん英語を話そうと努力しました。その結果、日本語から英語に変換する能力が高くなったと感じました。

【近藤　美空】

今日はホストファミリーと一緒にお家の近くの運河に行きました。車で 15 分程の場所にあり、そこではたくさんの白鳥やアヒルたちが気持ち良さそうに泳いでいて、周りには「ナローボート」と呼ばれるイギリスならではの細長い船が沢山浮かんでいました。運河の周りを散歩していると、ランニングをしている人やペットと散歩している人、家族連れの人々が多くいました。その日は曇りでしたが、涼しく空気も澄んでいたため散歩をするにはちょうど良い天気でとても心地よかったです。運河の途中にある大きな白鳥の銅像の近くで、ホストファミリーに写真を撮ってもらいました。とても立派な像だったのでその迫力に驚きました。また、近くのカフェで少し休憩をして、チョコレートコーヒーを飲みました。温かくてホッとしてとても美味しかったです。おまけにビスケットがついてきたのが嬉しかったです。ホストファミリーとも沢山話すことが出来て、私にとってとても楽しいひと時になりました。午後はホストマザーの大好きなジグソーパズルをして遊びました。一つ一つピースがはまる度に、皆で喜び合い、とても楽しかったです。夜ご飯はホームステイ最終日だったので、ホストファーザーが「ラストミール」と言ってローストビーフを作ってくれました。とても美味しくて、どの料理も絶品でイギリスの料理が大好きになりました。【山本　裕菜】

３月２４日（月）・２５日（火）

この日は、ホストファミリーとのお別れ、そしてイギリスを離れる日でした。10 日間お世話になった感謝の気持ちを込めて、ホストマザーに手紙を渡しました。別れはとても辛かったですが、ホストマザーが「あなたと一緒に過ごすことができて、とても楽しい 10 日間だったよ。またイギリスに帰ってきてね。」と声をかけてくれたのが嬉しかったです。いつかまた再会できるように頑張ろうと思いました。

帰りは香港経由で、16 時間の長いフライトでした。行きよりも移動や待ち時間に慣れ、空港で買い物もできました。機内では、友達と思い出を語り合いながら機内食を楽しみました。行きのときは緊張してうまくできなかった搭乗手続きや機内サービスのやりとりも、帰りには自信を持って対応することができました。自分の英語力の成長を実感できたのがとても嬉しかったです。そして、長時間のフライトを終えて家族と会えたときは、本当に安心しました。帰宅後は、お土産のお菓子を食べながらイギリスでの思い出をたくさん話しました。この 12 日間は、とても楽しく、そしてかけがえのない貴重な経験ばかりでした。【光岡　絵麻】

派遣を終えて

ホストファミリー紹介

現地での学び

今後活かしたいこと

1　豊田工業高等専門学校　　川上　彰斗

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーはホストマザーの Elaine さんとホストファザーの Hefin さんでした。Elaine さんはとても優しく、英語を聞き取れているかなど気にかけてくれました。Hefin さんはイギリスについてさまざまなことを話してくれました。たくさん話をしてくれるので、とても勉強になり、英語力の向上にもつながりました。Elaine さんと Hefin さんはイギリスの中でも出身が違っていて Hefin さんはウェールズ出身なので英語の発音の違いがあり、とても興味深かったです。初日には近くのショッピングセンターでお気に入りのシリアル探しをし、2 日目にはイギリスの伝統的な運河を実際に見て、そこを行き来する船の仕組みを教えてもらいました。また、最終週の土日には、Hefin さんの故郷であるウェールズに行ったり、ナショナル・スペース・ミュージアムに行ったりしました。さまざまな場所に連れて行っていただき、イギリスについてとても多くのことを学ぶことができました。わからないことがあって質問をすると親身になって教えてくださったり、体調に気を使って野菜を多くしてくださったり、本当に優しいホストファミリーには感謝しかありません。夕食後の英語でのトークではイギリスの EV 事情、移民問題、学費などさまざまなテーマについて話し合うことができ、イギリスについて深く学ぶことができました。とても優しく、知識が豊富なホストファミリーのみなさんのおかげで、楽しく、そして多くの学びのある時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

●現地での学び・今後活かしたいこと

私がまずイギリスに興味を持った理由は、イギリス政府が 2035 年までにガソリン車の新車販売を禁止し電気自動車にシフトするというニュースを見たからです。そして、このダービーシャー派遣で学びたいこととして目標立てたのは、イギリスの電気自動車の事情やどう環境問題と向き合っているのかを知るということです。実際にダービーシャーに派遣され現地に着くと想像していたよりも多くの違いがありました。

まず、現状ディーゼル車が圧倒的に多いという点です。私のホストファミリーもディーゼル車をもっておりディーゼル車は燃費が良いことや環境への影響が少ないなどからディーゼル車を扱う人が多いと聞きました。また、驚いたのはディーゼルがガソリンスタンドで一番高かったということです。それほど需要が高いのかと驚きました。では電気自動車はどうなのでしょうか。ホストファミリーの方や BSDC の学生と直接話をしたところ、イギリスでは路上駐車をする車が非常に多く、

家庭に駐車場がないことが一般的であると教えてもらいました。そのため、電気自動車の充電設備を自宅に設置することが難しく、利便性の面で大きな課題となっているようです。イギリスでは駐車場付きの家を持つこと自体が珍しく、ほとんどの家庭が道路に車を停めるため、自宅での充電ができません。公共の充電ステーションも設置されてはいるものの数が限られており長時間の充電待ちが発生することもあるそうです。また、イギリスの冬は寒さが厳しく気温が低いとバッテリーの持ちが悪くなるため、充電の回数が増えることも懸念されています。その結果、イギリスの方々の間では「電気自動車は便利だと思っていたが、実際にはガソリン車やディーゼル車のほうが使いやすい」と感じる人が多いようでした。特に長距離を移動する際には、充電時間の問題や充電スポットの不足が大きなネックになっており現在のイギリスのインフラでは完全な普及には時間がかかると考えられているようです。

このような話を聞いて、電気自動車の普及には充電インフラの整備が不可欠であり、駐車環境との兼ね合いを考えた新たな解決策が求められていると感じました。

ですが、その駐車環境に着目したアイディアを聞くこともできました。イギリスはバス社会であり､バスを電気化することで EV という技術をより有効に活用できるのではないかという意見です。確かにバスであれば専用の車庫があり、深夜などの利用が少ない時間帯に充電することも可能です。このアイディアは、電気自動車の利便性を高める画期的な解決策の一つだと感じました。

さらに、イギリスのトヨタ自動車（TMUK）の開発部門の方に直接質問をし、燃料電池自動車や水素自動車についての議論も行いました。現在の流れでは電気自動車が主流となっていますが、彼らの見解では、将来的には水素自動車へのシフトも重要な選択肢であるとのことでした。水素自動車の普及には充電設備と同様にインフラの整備が必要ですが、そのコストは莫大であり短期間での導入は難しいとされています。しかし、環境負荷の低減やエネルギーの持続可能性を考えると、未来のイギリスには水素社会の実現が不可欠であるとの意見が多くありました。水素は再生可能エネルギーと組み合わせることでクリーンなエネルギー供給が可能になり、家庭用の自動車にも対応できるようになりつつあり、イギリスの自動車社会においても便利に扱うことができると考えられています。特に長距離輸送や公共交通機関に加えて、個人の移動手段としても実用化が進められています。この話を聞いて、電気自動車だけでなく、水素自動車という別の選択肢にも注目することが持続可能なモビリティ社会を実現する鍵となると感じました。

今回の経験を通じて環境問題への取り組みは単に技術の進歩だけでなく、インフラ整備や社会の受け入れ体制も重要であることを学びました。日本でも電気自動車や燃料電池自動車、水素自動車の普及が進められていますが、それぞれの課題を考慮しながら柔軟に対応する必要があると感じました。

私はこれから多くのことを学びこれからの未来を作っていくエンジニアとして社会へ出ていきたいと考えています。そのため今回学んだ画期的なアイディアやエネルギー問題に関する知識を活かし、持続可能な技術の開発に貢献できるよう努力したいです。特に、エネルギ

ー効率の高いシステムの設計や、新たなインフラ整備の提案など、自分ができることを増やしていきたいと考えています。またイギリスで得た知識を活かし、エネルギーやモビリティの未来について考え、一味違った技術者としての視点を持って課題解決に取り組んでいきたいです。また、環境問題は一国だけの課題ではなく、グローバルな視点が必要です。今回のイギリスでの経験を通じて、異なる文化や価値観の中で環境問題に向き合うことの重要性を実感しました。これからは、日本だけでなく世界全体のエネルギー課題を見据え、国際的な協力の中でより持続可能な社会を実現するためのアイディアを発信できるようになりたいと思います。

今回経験したたくさんのことを活かし、イメージを膨らませアイディアをたくさん思い浮かばせて、皆さんの思い描く未来よりももっと豊かで暮らしやすい未来を創り上げていきたいです。

今回の事業を計画していただきました関係者の方々、先生、派遣団一同の皆様に感謝します。ありがとうございました。

2　豊田西高等学校　　村瀬　七海

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、Olga Rowe さんという一人暮らしの女性の方でした。ロシア出身の方だったので、初めて会った時は訛りのある英語に戸惑うこともありましたが、私たちが理解しやすいようにゆっくりと分かりやすく話してくれたり、英語を聞き取れなかった時には別の言葉で丁寧に説明してくれました。また私が、迎えに来てくれた車でたくさん話しかけると、あなたお喋りが止まらないわねと笑ってくれた時とても嬉しかったのを覚えています。Olga さんは散歩が大好きだったので、一緒に白鳥に餌をやりに行ったり、ロンドンに出かけた際に、歩きながらたくさんお話しをしました。途中で、これは何？と聞くと、歴史を交えていろいろなことを教えてくれました。

また、夜ご飯を一緒に作ったり、食べた後は、毎日"A cup of tea？"と言ってお茶とお菓子を出してくれました。その後には映画を見て、どの時間もとても有意義なもので素敵な思い出になりました。　ホストマザーと過ごした 2 週間は一生の宝物です。

●現地での学び

私は今回の派遣を通して大きく二つのことを学びました。

一つ目は、人との出会いを大切にし、積極的にコミュニケーションを取ることです。私は今回の派遣で心がけたことがあります。日本では英語を話す機会が少なくなかなか自分の実力を発揮できる場がないので、この貴重な機会に少しでも多くのことを話したいと思い、自分から話しかけることを意識しました。すると自然と相手からも話しかけてもらえるようになり、多くの人とコミュニケーションを取ることができたと思います。イギリスに限らず、日本にいても、相手から話しかけられるのを待っているだけでは会話は生まれず、自分のことを知ってもらうことも、相手を知ることもできません。初めは、質問されたことに答えるだけの会話でしたが、現地の人を真似て自分から会話を広げ積極的に話すことを心がけると、話が弾み、今までよりも相手のことを知ることができ、本当の意味での会話の楽しさを感じることができました。また、言いたいことが伝わらない時は、もどかしくて諦めがちですが、失敗を恐れずなんとか伝えようとする姿勢を示すことも、大切だと気づきました。

二つ目は文化の違いです。現地で私が一番驚いたのは人々の挨拶です。日本では、すれ違う人とは「こんにちは」の一言で終わってしまいがちですが、イギリスでは挨拶から始まり、どこから来たの？調子はどう？など、会話を広げてくれることが多く、私の不安や緊張を和らげてくれました。そんな自然な会話が嬉しかったのと同時にとても心が温まりました。さらに生活面では、日本のようにゴミステーションにゴミを持っていかなくてもゴミ箱を家の外に出しておくと業者の人が回収してくれたり、満員電車の際、改札にチケットを通さないなど、日本との違いに驚くことばかりでした。この派遣を通して、異文化に対する考えや、視野を広げ様々な視点から物事に触れることの大切さを学びました。

●今後活かしたいこと

私が今回の派遣事業に参加しようと思った理由は自分の名前の由来にあります。私の名前は七つの海と書いて七海です。両親がつけてくれたこの名前には、七つの海を駆け巡り、世界中で活躍してほしいと言う願いが込められています。私は、その第一歩として今回の派遣に参加しました。そんな中で私が今後に活かしていきたいと思ったことが三つあります。

一つ目は、自分の将来を真剣に考えることです。私がホストマザーと話している時、こんなことを聞かれました。「将来どんな職業に就いて、どうやってお金を稼ごうと考えているの？？」この時、

私にはこれになりたい！といった夢がなかったので、「まだ夢はないけれど、英語を使って人と関わる仕事に就きたい」と答えると、「それだけだと、はっきりと将来の見通しが立てられないから、もっと先を見据えて真剣に考えることが大切だよ」と教えてくれました。また、BSDC の学生の人たちに夢を聞いた時、多くの人が自分の将来を真剣に考え、それに向かって努力している姿が見られ、とても良い刺激をもらえました。

二つ目は、周りの目を気にしたり間違えることを恐れず、何事にも挑戦する気持ちを持ち続けることです。昔は周りの目を気にしていなかった私ですが、高校生になってから間違えることを恐れたり、馬鹿にされることを嫌って、自分らしくいることを少し忘れていた気がします。でも今回の派遣でのコミュニケーションを通して、間違えることは決して恥ずかしい事ではなく、ありのままの自分でいるのが一番だということに改めて気づきました。これからは、失敗を恐れることなくどんな些細なことにも自発的に挑戦し続けたいです。

三つ目は、思ったことを相手に伝えられる力を養うことです。今回の派遣では、BSDC へ行った時に、初めて会う人から、「その髪型素敵だね！可愛い！」と言ってもらえたり、発表に緊張していると「頑張って。あなたなら大丈夫。」と声をかけてくれたりと、自分が思ったことや、相手を応援する言葉を伝えてくれる人が多かったです。これまで生きてきた中で、自分の思ったことを親しい人以外に伝えてあげられたことはあまりなかったと思います。でも何気ない一言で繋がりが生まれたり、誰かを幸せな気持ちにできると知って、これからは自分から積極的にコミュニケーションをとって、困っている人を助けたり、誰かの味方でいられる、そんな人になりたいと思いました。

この二週間で培った経験から、自国の文化だけではなく、他国の文化にも目を向けて、これまでとは違った価値観に触れること、また人との出会いに感謝して、失敗を恐れず何事にも積極的に挑戦し、より広い視野を持って世界へ羽ばたいていける、そんな人になりたいです。

3　豊田東高等学校　　山野　快和

●ホストファミリー紹介

私がお世話になったホストファミリーは、一人暮らしの女性のミセス・ロウです。彼女の趣味は歩くことです。彼女は、初めて会った日の夕方に、緊張している私たちを湖まで連れ出してくれました。彼女は、その湖に週三日も通っていると教えてくれました。初日にそこへ連れて行ってくれたので、彼女の日常に、私たちを迎え入れてくれようでとても嬉しかったし、不安も減りました。そのように、彼女は私たちが安心して暮らせて、よりよい物となるようにたくさんのことをしてくれました。学校に行く前は「良い一日を!」と笑顔で見送ってくれたり、学校が終わって家に帰ると、

いつも今日はどうだったのか質問してくれて、会話をたのしんだり、親しくなることが出来ました。また、日本に帰るまでの最後の週末には、私たちが行きたいと言っていたロンドンに連れて行ってくれました。彼女のおかげで、とても充実した日々を過ごすことが出来ました。彼女と一緒に過ごした時間は私にとって一生の宝物となりました。とても感謝しています。

●現地での学び

今回の派遣に参加して、私は初めてのホームステイを経験しました。誰かとコミュニケーションを取ることは好きでしたが、日本とは全く違う知らない環境の中、１人で生活することにたくさんの不安や緊張がありました。ですが、たくさんの人のサポートや、日本にいる家族や友達といつでも連絡を取り合える環境があったので安心して暮らすことが出来ました。私がイギリスに行って学んだことは、2つあります。1つ目は、日本とイギリスの生活の違いです。イギリスに着いてはじめて見た景色はレンガ造りの統一された家が並んでいるところだったので印象的でした。内装も日本の家と大きく違っていました。お風呂とトイレが一緒になっているところや、タイルの床は海外ドラマのままで感動しました。また、通学に使ったバスや、ホストマザーと一緒に乗った電車には特に驚きました。遅延ばかりだと思っていた海外の交通手段は、遅延はもちろんあるものの、早いこともあったので時間をしっかり調べることがすごく大切でした。さらに、犬が当たり前に乗っていることや電車にトイレがあることにも驚きました。イギリスでの当たり前は、現地で五感を使って感じることで発見できることが多く、この派遣に参加して本当に良かったです。2つ目は、自分から話しかけることの難しさと大切さです。通った BSDC での学生との会話は相手から話しかけて貰うことを待っているばかりでは親しくなることは難しかったです。なので、自分から質問することを意識し頑張りました。ですが初めは、返ってきた質問の答えに簡単なリアクションをすることしかできないのがすごく残念でした。たくさん話しかけて何度も挑戦し、少しずつなれて会話を広げられるようになりました。私のつたない英語でもくみ取ろうとしてくれ、分かるまで言い換えながら話してくれた学生の方達にはすごく勉強をさせてもらい感謝しています。今回の派遣では自分自身で体験して学ぶことが一番身につくと思ったし、何より絶対に忘れない印象的なことになると学びました。なのでこれから、何事にも挑戦して、たくさんの経験をしていきたいです。

●今後活かしたいこと

私はこの派遣に、今過ごしている生活から離れてたくさんの刺激を貰いたかったので応募しました。私にははっきりとした夢はありませんが、日本人とだけでなく、たくさんの国籍の人たちと関わって仕事をしたいと思っています。そんな中でこのダービーシャー派遣は自分の世界を広げてくれるような体験になりました。BSDC ではたくさんの学生の方々と関わることが出来ました。色々な人と関わる中で「外国の人」という大きなくくりでまとまって認識していたことに気付き、1人1人を知ろうという気持ちになりました。また、今でも連絡を取り合っている友達も出来ました。日

本に帰ってきてからもたくさんイギリスのことや、その友達の出身地である南アフリカのことを教えてもらい、派遣に行く前ではあり得ないような、新しく、刺激的な日常を送ることが出来ています。勇気を出して派遣に参加し、通っている高校や、家庭や、部活内の小さな世界が全てではないことが分かりました。日本での当たり前は世界ではそこまで重要視されていなかったり、イギリスでの当たり前も知らないことが多かったです。この派遣では、日本にいるだけでは分からなかった、文化の違いを学ぶことが出来ました。また、もっとたくさんの国に行き、多くの文化や人を知っていきたいです。また、派遣中には今の自分の英語力を測ることが出来ました。ネイティブの英語には 1 人 1 人癖や訛りがあったので、聞き取ることに苦戦したり、分からない単語や、略されて使われている言葉もあったのでとても難しかったです。なので、普段学校で習ってる英語をただ勉強するだけでなく、今回のように海外の人とたくさん話すことが大切だと思いました。そのことから、この派遣で出来た友達との交流を続け、本場の英語を学び続けたいです。最後に、私のホストマザーはとても心の温かい人で私もそのようになりたいと思いました。ホストマザーのオルガさんは、ホームステイ中に私たちが居心地良く過ごせるようにたくさんのおもてなしをしてくれたり、道で困っている人にコインを渡したりするなど、優しいだけでなくとても心に余裕のある人でした。私は今色々なことに興味があり、一日にいろいろなことを詰め込みすぎてしまうのでオルガさんのように気持ちに余裕を持って生活したいと思いました。ただそれだけでなく、たくさんの人に優しさを忘れずに接していきたいです。この派遣に参加できたことに感謝して、一生の宝物としてこれから夢に向かって頑張っていきたいです。

4　猿投農林高等学校　　藤沢　愛音

●ホストファミリー紹介

私がお世話になった方は、Julie White さんという方でとても温かくフレンドリーな女性です。犬の Spikey と一緒にのどかな場所に住んでいます。Julie さんの家には広いお庭があり、そこでベリー系の果物を育てています。その収穫したベリーを使い、ジャムを作っています。私たちは毎朝、Julie さんが作ったジャムをクロムピッツと一緒に食べるのが日課でした。Julie さんはお花が好きで、そしてよく笑う方でした。Julie さんと過ごした時間は、笑いが絶えずとても楽しいものでした。私が花束をプレゼントした時も、とても喜んでくれました。Spikey はボール遊びが大好きで、いつも足元にボールを転がして「遊んで」とアピールしてきます。また、

Spikey はお肉が好きで、お肉しか食べません。お肉以外の食べ物をあげても全然食べないところがとてもかわいらしいです。Julie さんと Spikey との生活はとても楽しく素晴らしい経験で、私の大切な思い出となっています。

●現地での学び

私は今回の約１０日間というとても短い研修期間中に「もっと話せばよかった」と後悔をしないように、うまく話せなくてもいいから自分から積極的に話しかけるということを目標にしていました。特に私は、ホストファミリーという関係にずっと憧れていたので、ホストファミリーに積極的に話しかけにいくことを心がけました。その中で私が学んだこと・感じたことは２つあります。

一つ目は、積極性の大切さです。私は、初めの頃、緊張でなかなか自分から話しかけることができませんでした。英語に慣れることができず、聞き取ることも難しかったです。周りの人たちが流ちょうに会話をしているのを見ると焦りを感じ、ますます自分から話しかけるのを躊躇してしまいました。さらに会話のスピードが早く、知らない単語も多かったので、理解するのに苦労しました。しかし、そんな中でホストファミリーの Julie さんが私の拙い英語を真剣に聞いてくれたり、笑ってくれたりしました。そんな経験を通して、「うまく言えなくてもいいから積極的に話しかけにいこう」という気持ちが再び芽生えました。その結果、最初は簡単な単語から話し始め、だんだんと「何か手伝うことはありますか」と話しかけにいくことができ、「今日こんなことしたよ」と軽い会話をすることができるようになりました。自分から積極的に話しかけたことによって相手からも話しかけてもらえるようになったと感じました。

二つ目は、あまり文法を気にしすぎないということです。授業で習った文法ばかりを意識して話そうと思うと、なかなか会話をすることができませんでした。そこで、一旦難しいことは気にせずに思ったことを言ってみたり、翻訳アプリで調べてみたりすると緊張せず、楽しんで会話をすることができました。文法が完璧でなくても伝わったりするので、とにかくたくさん話すことが大切だと感じました。

私はこの研修で貴重な経験をたくさんすることができました。また、今回の研修を通して以前よりは英語が理解できるようになったと感じましたが、同時に自分の英語力の未熟さも痛感しました。なのでこれからも英語の学習を意欲をもって続けていきたいと思っています。

●今後活かしたいこと

私が今回の研修を通して今後に活かしたいことは、まずこの研修の経験を活かし日常的に英語を使うことです。私はこの研修に参加すると決めてから週に１回英会話教室に通い始めました。そこにはイギリス出身の先生がいます。その先生のもとで、本場の発音や表現、イギリス英語の特徴などを学びましたが、すべてを聞き取ることができませんでした。研修期間中も、なかなか聞き取れないことや、自分の言いたいことがうまく伝わらず、たくさん悔しい思いをしました。そのため、帰

国後もこの英会話教室に通い続け、定期的に英語を話す機会を持つことで、スピーキング力やリスニング力をさらに向上させたいと考えています。また、より自然な言い方や発音などもしっかりと勉強していきたいです。私は今回の研修期間中は、文法を完璧に話すということよりも積極的に話すということを目標としていたので、次のステップとして文法を正確に使えるようにするということを目指していきたいです。その他にも、もっとたくさんの単語を覚えていきたいと考えています。この「文法の完璧さにこだわらないで積極的にコミュニケーションをとる」という柔軟な考え方は英語についてだけでなく、他の分野でも活かせると思います。例えば、今後就職し、問題に直面した際には、新しい考え方や問題解決のアプローチに役立てたいです。

次に、常にニュートラルな視点から多角的に物事を広くとらえることの重要性に気づけました。イギリスでは、ビーガン専用のランチプレートがあることや、BSDC の食堂でもお肉を使わないランチが出てくる日があったりと、全ての人に配慮するという考え方を学びました。また、BSDC の学生の中にはイスラム教の方もおり、多様な文化や価値観を実感することができました。この経験から自分とは異なる文化や価値観の人に配慮し、尊重する姿勢を大事にしたいと思いました。多様性を大事にする考え方は今現在の高校生活では普段関わる人間にも限りがあり、その重要性を強く感じる機会が少ないですが、これから社会に出て色々な場所へ行き、多くの人と出会う中でより必要となる考え方だと思いますし、職場などでコミュニケーションが円滑になるとともにより広く深く物事をとらえる視点をもつことでより良い人間関係を築くことができると考えています。

最後に今回の研修を通して得た英語のスキルをこれからの生活の中でさらにスキルアップさせ、再びイギリスを訪れたいです。そして今回自分の英語力の未熟さから伝えきれなかったことや話したかったことを上達した英語でスムーズに伝え、もっと多くの人と色んな話がしたいです。そのためにも、これからも英語の学習に励みます。

5　松平高等学校　　佐藤　志樹

●ホストファミリー紹介

僕のホストファミリーはホストマザーのレイチェル、息子のルーク、猫のジーズ、フロッピーでし。ホストマザーはとても明るい方で、会った時とても緊張していたのですが、積極的に話しかけてくれ、緊張を和らげてくれました。初日に街を案内してもらいました。私が気になったことを聞いたら、分かりやすく丁寧に説明してくれました。スーパーに行った時にイギリスのオススメの品などを教えてもらいました。2 日目もマットロックという場所に連れて行ってくれ、毎週末どこかに遊びに連れて行ってくれました。息子のルークは中学生の男の子でした。ゲームが好きで一緒に遊んだりしました。僕が持ってきたお菓子を気に入ったようで沢山食べていました。家にいた動物で兎のフロッピーとは、なかなか関われなかったけれど、ジーズは近づいても逃げることなく触れさせてくれました。ジーズはホストマザーが座るところを我が物顔で居座っていて面白かったです。ホストファミリーと生活していてすごく楽しい 1 週間になりました。

●現地での学び

約 1 週間という長いようで短いイギリス海外派遣で僕はたくさんのことを学びました。僕は今回の派遣事業でとにかくたくさん英語を喋るという目標を掲げていました。最初は緊張や英語を話す不安からなかなか喋ることができない状況でしたが、今の自分の状況はせっかくの機会なのに勿体ないと感じ、話すように心がけました。自分の伝えたいことを英語にして伝えようとするのはとても難しかったですが、相手に伝わった時は達成感がありました。会話をしている時に相手が何を言っているのか分からない時もありましたが、会話の雰囲気から察したり、素直に分からないと伝え教えてもらったりしました。

次に BSDC の学生達と授業を受けた時は、問題が分からなく悩んでいた時に、学生達が優しく助けてくれました。アフタヌーンティー体験でテーブルセッティングをする時はどうやるかを教えてもらい、実践し、できた時には褒めてもらえて嬉しかったです。BSDC の学生達と話す時に完璧な英語でなくて、簡単な単語、文章で伝えてもいいんだと思いました。聞き専になるのではなく、自分から話しかける勇気も大切だと思いしまた。また、仲良くなった BSDC の学生達とインスタグラムを交換するなどし、今もたまに連絡をとっています。

そして、ホストファミリーは僕の心を 1 番落ち着かせる話せる相手でした。家に帰るとホストマザーは「今日は何したの？」など話しかけてくれ、会話しやすい内容を沢山だしてくれました。言葉につまりながら話していてもホストファミリーの優しい眼差しで待っていてくれる時は嬉しかったです。ホストファミリーと家族の話になった時に和服を着た写真を見せたら興味を持ってくれ、話したのはとても楽しかったです。

イギリスと日本の文化の違いを実感したのは食事でした。イギリスには下味をつける文化がなく、日本では料理をする時、事前に味をつけるんだよ、と教えた時はとても驚いていました。

私は今回の派遣事業を通じ自分の世界を広げることが出来ました。この貴重な体験をするためにサポートしてくれた方々に感謝をしています。

●今後活かしたいこと

僕は今回の派遣事業に参加し、さまざまな体験を通して多くのことを学びました。その中でも特に強く感じたのは、自分の英語がうまく伝わらないことへのもどかしさです。英語で会話をしようとしても、思っていることをうまく言葉にできなかったり、相手の言っていることが完全には聞き取れなかったりして、悔しい思いをすることがありました。けれど、実際に現地の人と話す中で、日常でよく使われるフレーズや表現を知ることができ、とても勉強になりました。

将来、僕は留学をしたいという目標があります。そのためにも、これからは今まで以上に学校の英語の授業に真剣に取り組み、自分の英語力を少しずつ高めていきたいと思いました。今回の体験を通して、自分に今何が足りていないのかを具体的に知ることができたことは、大きな収穫だったと感じています。特に、「聞く力」がとても重要だということに気づきました。英語で会話をするためには、相手が何を言っているのかをまず理解する必要があります。これまでは教科書を読んだり、英単語を書いて覚えたりといった学習が中心でしたが、これからは「音」で英語を覚えることにも力を入れていきたいです。耳で聞いて、自然に英語のリズムや言い回しを身につけることが、会話力アップにつながると感じました。

また、僕は今回の派遣事業の中で、どうしても会話中に聞き手にまわることが多くなってしまいました。相手の話を聞くのも大切なことですが、これからは自分から話題を出したり、自分の思っていることをしっかり伝えられるようになりたいです。そのためにも、実際に声に出して練習したり、自分の言いたいことを英語でまとめるトレーニングをしていきたいと思っています。

今回の経験を通して、僕は「積極的に行動すること」「間違いを恐れずに挑戦すること」「相手を理解しようとする姿勢」がとても大切だということを学びました。この学びを、これからの学校生活だけでなく、将来の進路や人生にも活かしていきたいです。失敗を恐れず、自分から行動し、初めてのことにも前向きな気持ちで挑戦していけるよう、自分をもっと成長させていきたいと思います。

6　豊田工科高等学校　　鈴木　美羽

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、spikey という名前の犬と Julie Whites さんというホストマザーでした。家は、学校から車で 30～40 分くらいのところにあって少し遠いですが、広大な自然が広がっていて空気がきれいな場所です。犬の spikey は、11 歳なのにとても元気で、いつも家の中や庭を走り回っています。ボールが大好きでボールを投げて遊んであげると喜んでくれて、すぐに仲良くなりました。Julie さんはとても親切で明るく、フレンドリーな方で親しみやすかったです。特にそう思ったのは、私が緊張して上手に英語が喋れなかった時です。Julie さんは絶対に話をさえぎらずに笑顔でいてくれたり、英語が聞き取れなかった時でも、わざわざ紙に書いてくれたり、わかりやすい簡単な単語で何度も説明をしてくれました。Julie さんは家の近くにある事務所を拠点に WELLIESPROJECT というプロジェクトをやっていて、それを仕事にしているそうです。この活動は、様々な理由で心が弱ってしまった人や、何か辛い経験をした人を支え、元気を分けてあげるものだそうです。主に地元での活動を行っていて、地域の人々との交流を深めています。

●現地での学び

私にとって、今回の研修は海外に行く初めての挑戦だったので、イギリスに行く前はとにかくワクワクしていました。しかし実際に行ってみると、当たり前ですが耳にする言葉は全て英語で、現地の人の会話のペースについていけず、困り果ててしまいました。焦りの気持ちと、今後一週間やっていけるかという不安感で押しつぶされそうになりました。そんな時、ホストマザーが、「わからないのは当たり前だからゆっくりでいいよ、大丈夫よ。」と声をかけてくれたり、英語を担当してくださったジョン先生が、「あなたの英語はいいね!」と言って褒めてくださったりしました。これらの励ましのおかげで、気持ちを切り替えることができ、徐々に楽しいと感じることができました。ホストマザーやジョン先生のようにイギリスに住んでいる方々は、常に私たちのことを肯定してくれたり、褒めてくれたりしました。それは私たちが日本人で、研修に来たばかりだからという理由も多少はあるかもしれません。しかし私はそれだけではなく、イギリスでは初対面の人を含めいろんな人とコミュニケーションをとることや、人を褒めることが当たり前のこととして文化的に根づいているからだと感じました。そう感じた理由の一つに、ホストマザーと散歩をしていた際の出来事があります。イギリスの方は通りすがりに挨拶をして、「元気？」から始まり、「その服素敵だね、どこで買ったの？」などと、話がどんどん膨らんでいき、ちょっとした会話を楽しみます。そんな会話を特定の人とするわけではなくて、本当に幅広く様々な年齢層の人としていたのを間近で見ました。この様なことは、日本ではありえないと思ったのと同時に、とても素敵な文化だなと思いました。またそこから、初対面の人を含めいろんな人と壁を作らず話すことの大切さを学ぶことができました。

●今後活かしたいこと

今回の研修で私はイギリスの方々を含め、外国の方々のコミュニケーション能力の高さ、人柄の良さを間近で感じることができました。その貴重な経験から私は、普段身近な友人と話すときだけでなく、初対面の人と話す時においても、自分から話題を提供したいと思いました。皆が話しやすい、話したいと思えるような雰囲気を作っていけるような、頼られる人になれるように心がけて生活したいです。学校の行事では、普段あまりコミュニケーションをとらない他学年の生徒と関わる機会が増えます。また、大人数での話し合いで何かを決める必要性が出てきたりします。その様なとき、今まで私は誰かの意見をただ聞くだけでした。しかしこれからは、自分が一番に手を挙げて発言したいと思いました。

また、私は将来高校を卒業したら警察学校に入学し、警察官になろうと考えています。現在日本、特に愛知県には、いろんな国籍の人が住んでいます。その様な社会では、幅広い年齢や、国籍の人と向き合わなければいけません。もしかしたら、日本語が通じない、英語が通じないといったことが増えてくる可能性も十分にあると思います。しかし、そうなったときにこそ、今回のイギリス研修で得た経験を生かしたいと思っています。私は英語圏で日本語が全く伝わらない環境の中で、不安や喋りづらさを身をもって経験しました。イギリスで私がホストマザーの笑顔に支えられて安心できたように、外国人の方々に寄り添える警察官になりたいと思います。私がイギリスで現地の人に助けてもらったように、将来私も国籍に関係なく、全ての人の助けとなれるような存在になりたいです。

また、今回イギリスで学んだことを、家族や友人という身近な人だけでなく、地域の方々にも伝えていきたいです。国が違えば文化や価値観も違うけれど、人の温かさは一緒だと心から感じることができました。様々な国が、互いの違いを認め合い共存し、平和な社会の実現を目指していく中で、私は他国との架け橋的な存在になれるよう、努力を継続していきたいです。

7　足助高等学校　　藤谷　柚子穂

●ホストファミリー紹介

私がお世話になったホストファミリーは Kinnard さんです。Kinnard さんは大家族で、８人の子どもと１４人の孫がいるそうです。大家族なので大きな家に住んでいます。３階建てでベッドルームだけでも８部屋あり、シャワールームも２か所ありました。家の奥には大きな庭もあり、その庭にはブランコなどの遊具もありました。そこにはチキンもいました。そんな家で一緒に暮らしてくれたのはホストファザーの Andrew さんとホストマザーの Claire さんです。最初の数日間だけ娘の Madeleine さんとみんなで暮らしました。Andrew さんは優しい方で、私が英語を話すときに単語を思い出そうと考えているとゆっくりと待ってくださりました。おかげで自分で考えて話すことができたので日本で学んだことを使う機会になりました。Claire さんは私の英語の力を上げるために趣味のジグソーパズルをしながらや本を一緒に読みながらわからない単語を教えてくださったりしてすごく充実した時間を過ごせたと感じています。

●現地での学び

私は今回のこの派遣事業で始めて海外に行きました。私は海外の暮らしはどのようなものだろうと考えていました。そこでこのダービーシャー派遣事業に行きたいと思いました。

初めて海外に行き、初めてのホームステイでした。イギリスに着いたとき周りの人が話す言葉が英語ばかりでこのまま生活していけるかすごく不安でした。今年度のプログラムでは１日目からホストファミリーのみなさんと一緒にせいかつさせてもらいました。私は１日目にイギリスの町を散歩しました。ホストファミリーの Andy さんと Claire さんと娘さんの Madeleine さんと行きました。まず、学校までの生き方を教えていただきました。ホストファザーから車で行くか歩いていくか問われたときにイギリスの風景が見たいという理由から歩きで行くことにしました。そこで学校まで行ってみることにしました。そこで学んだことは横断歩道が少ないと感じました。家から学校までの道中で横断歩道はありませんでした。そのため平日、学校への登校中よく出勤途中の車がたくさん通るので道路を渡るのに長い時間をかけた日もありました。私はこのホームステイ中、１回くらいしか横断歩道を渡らなかったと思います。少し危険だなと思いましたが、運転手の方々が止まってくださるので安全に渡ることができます。

平日は学校での生活でした。初めてのホストファミリー以外の方々と英語で話す機会になりました。始めは緊張と不安であまり現地の生徒に話しかける勇気が出ず一緒に行った日本の友達といることが多かったですが、友達とＢＳＤＣの生徒に話しかけてみました。

自己紹介から始まり、いろいろな話をできました。私が言葉に詰まっていると「〇〇ってこと？」と聞いてくれたりしてコミュニケーションをとることに対して少し気が楽になりました。カルチャーショーで私は書道を紹介しました。筆を使って書くことを説明することは難しかったですが、諦めずに知っている英単語で会話をすることで自分で考える力がついたと感じます。他にも県庁などいろいろなところを訪れました。そこで買い物などをするときには会話が必要になってきます。そのためこの派遣中たくさんの英語を使うことができました。わからなかったら詳しく意味を聞いたり、自分の言いたい単語が分からない場合は知っている単語で説明していくと現地の方々が分かってくださったりしてすごくコミュニケーションをとることが楽しく感られるようになりました。

●今後活かしたいこと

私がイギリスで学んだことはコミュニケーションの取り方です。イギリスでは散歩をすることが人気で休日はほとんどの人が近所を散歩しているそうです。またサイクリングも人気で私のホストファミリーも好きだそうです。私も休日はホストファミリーと散歩をしました。すごく楽しかったです。そこで気づいたことはイギリスの方々はみんなフレンドリーなので私のホストファミリーは初対面の方でも楽しそうに仲良くコミュニケーションをとっていました。ランニングをしている方には応援の言葉をかけたり小さい子には優しくあいさつをするなどたくさんのコミュニケーションの取り方を学びました。日本ではあまりそういうことがないのですごく意外でしたがその方が楽しそうだなと感じました。ただ歩くだけの散歩ではなくいろいろな方とコミュニケーションをとることでより楽しくなると思うので将来、イギリスで生活してみるのも楽しそうだなと思いました。

私は１人で何かをするよりも複数人で物事を進めていく方が楽しいと思います。複数人で行うということはコミュニケーションをとることが大切になります。そのためどの言語でも相手に伝わるように言語化し、伝えようとする意志が大切なのだなと感じました。

私はこのダービーシャー派遣事業でコミュニケーションをとることに力を入れました。コミュニケーションというのはどの国でも大切で、言葉にして相手に伝えるということはとても大切です。ですが、簡単なことではありません。そのためイギリスでの生活中、自分が伝えたかった意味がそのまましっかりと相手に伝わったときはすごく嬉しく、達成感を得ることができました。

私は今後大学で留学をしたり、海外もう１度訪れたいと思っています。その時にはより英語を勉強してなるべく話せるようにして海外に行きたいと思います。今回の派遣事業で簡単には伝わらないことを実感したのでより多くの単語を学んだり文法やネイティブでしか使わない、学校では習わない英語などしっかりと用意をしていきたいです。そしてコミュニケーションをとるうえで１番大切なことは伝えようとする意志と笑顔だとイギリスで学びました。そのためコミュニケーションをとるときは私も笑顔で相手も自分も話しやすい雰囲気作りからしていきたいです。これからも英語の勉強をして将来に向けて頑張っていきたいです。

8　豊田北高等学校　　山本　裕菜

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは Andrew と Claire というとても心優しく素敵なご夫婦でした。お出迎えの時には私のスーツケースを運んでくれたり、お家に着いてお部屋に移動した時には、さりげなくチョコレートを机の上に用意してくれていました。また、「今日は何をしたい？」、「ご飯は何がいい？」など毎回私のやりたい事を聞いてくれてとても親切でした。TESCO というスーパーに連れて行ってもらった時には、一つ一つお菓子の説明をしてくれ、イギリスの人達に人気の商品を教えてくれました。お土産で買うと良い物も教えてくれて、とても良い買い物が出来ました。

また観光スポットに連れて行ってもらった時には、ホストファーザーが「写真を撮ってあげるよ」と言って沢山の写真を私の携帯で撮ってくれました。ホストマザーは「シャワーや洗濯は自分の好きな時にするといいよ」と言って、使い方を私が分かるまで丁寧に教えてくれました。おかげで楽しい一週間が過ごせました。成長した姿をいつか見せに行きたいです。

●現地での学び

私はこの派遣を通して、自分から積極的に現地の人々に話しかける姿勢の大切さと、他文化をきちんと理解する事の大切さを学びました。私は派遣前に二つの目標を立てました。一つ目は恐れずに話すきっかけを作る事、二つ目は積極的にコミュニケーションを取る事です。この二つの目標を達成するために、BSDC の学生やホストファミリーに自分から積極的に話しかけ、沢山コミュニケーションを取るようにしました。最初はとても緊張していましたが、話しているうちに自分の英語でも伝わるのが凄く嬉しくてとても楽しく会話する事ができました。この派遣事業は、私にとって初めての海外に行く経験で不安も沢山ありました。言葉が通じるかはもちろん、現地の生活に馴染めるかという心配もありましたが、ホストファミリーや現地の人々がとても優しかったので、安心して過ごす事が出来ました。自分の思いを伝えたり、質問に答えたりする時に言葉が詰まってしまう事もありましたが、ゆっくりでも自分の言葉でしっかり伝える事が大切だと感じました。

また、現地に行って、日本とイギリスの文化の違いにも気付きました。特に印象に残っているのは、昔の物を大切にする文化と、現地の人のフレンドリーな接し方です。まずイギリスでは、歴史や伝統を大切にしていて、何百年も前の建物や教会が沢山あり、今でもそれらを大切に保存して使い続けている事に驚きました。日本でも古いお寺や神社を大切にしていますが、イギリスでは街並み自体が歴史的な物と

して残っていて、それを普段から大切にして生活している点が新鮮でした。そして、イギリスでは人との繋がりも大切にしていて、道端で会う初対面の人にもホストファミリーが笑顔で話しかけていて、誰とでも親しく話す文化があるのだなと感じました。日本では顔見知りの人や親しくないと出来ない事なので、誰にでも分け隔てなく話しかけているホストファミリーは凄いなと思いました。このように伝統的な物をずっと大切に使い続ける心や、知らない人でも笑顔で話しかけている姿を見て、私も日常の中でもっと周りの事や人との繋がりを大切にしようと思いました。

●今後活かしたいこと

イギリスへの派遣事業を終えて、帰国後の生活で特に、時間を気にしながら生活する事と、身の回りを綺麗に保つ事を意識していきたいと思いました。当たり前の事ですが、イギリスでは特に全員で集まる時や公共の場では、時間を守る事の重要さを強く感じました。決められた時間には必ず遅れずに集合したり、予定通りに物事を進める事が当たり前のように行われていました。これは、「時間を守る」だけでなく、相手の事も考えて行動しているのだと感じました。私も、日常生活を送る上で学校生活や友達との約束を守り、時間通りに行動できるよう心がけたいです。また、現地の生活では、周りを整頓しておく事が大切だと感じました。私は滞在中、ホストファミリーとの生活の中で、部屋や共有スペースを常に綺麗に保つ事を心がけました。これは見た目だけでなく、皆が気持ちよく過ごせるようにするためにも大切な事だと実感しました。帰国後は、家の中や学校でも自分の身の回りをきちんと整理整頓し、過ごしやすい部屋になるように心掛けたいです。このような些細な事でも日々の生活においてとても重要であると学べました。

また私は将来、自分の大好きな英語や他の言語を使った仕事をしたり、困っている人達を助けられるような職業に就きたいと考えています。イギリスでの経験を通して、文法を考えて上手に話そうとせず沢山積極的にコミュニケーションを取ったり、笑顔と感謝を忘れずに行動する事の大切さを学びました。初めは分かりやすく自分の気持ちが伝えられなかったり、間違える事が怖くて上手く話せなかったけれど、少しずつ自分の気持ちが伝えられ、スピーキング力が上達しているのを感じてとても嬉しかったです。これからは英語はもちろんの事、他の国の言語にも挑戦し、多くの人達とコミュニケーションを取っていきたいです。また、ALT の先生と話したり、友達と英語で話したり日本にいる海外の人に、恥ずかしがらず自分から話しかけたりして、沢山言葉に触れたいです。そして将来は、その経験を活かして国際的な事に目を向けて、様々な文化や多くの人たちを繋げる役割を果たせるような人になりたいです。

今後の取り組みとして、もしこのような派遣事業が再びあったら、必ず参加してさらに自分に自信をつけられるように頑張りたいです。今回の派遣事業で英語力やコミュニケーション能力はついたけれど、まだ積極的に話す力が足りていないと思いました。次の機会では、もっと積極的に話しかけ、自分の意見をしっかりと伝えられるようになりたいです。そして、もっと沢山の事を経験して、さらに自信をつけることが出来たら、将来の夢にも大きく近づくので一生懸命に励みたいです。今回の派

遣事業を通して得られた事は、私にとってとても重要で貴重な経験です。これからの生活や将来にもきちんと活かしていきたいです。イギリスで学んだ事を日々の生活に取り入れ、さらに成長していきたいです。私達がこのような貴重な経験が出来るように計画をして下さった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。私にとってとても良い経験になりました。本当にありがとうございました。

9　豊田高等学校　　石倉　響姫

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、Monica Henchcliff さんという方で、滞在中はずっと「モニカ」と親しみを込めてお呼びしていました。モニカはいつも笑顔が素敵で、よく笑う明るい方でした。初めて会った日から最終日まで、本当に様々な場所に連れて行ってくださいました。美しい自然が広がる国立公園や活気あふれる街の散策など、その土地ならではの魅力を体験させてくれたことは、忘れられない思い出です。 モニカは、いつも私の拙い英語に辛抱強く耳を傾けてくれ、言葉に詰まると優しくフォローしてくださいました。食事の際には、現地の家庭料理を丁寧に説明してくれ、その国の文化や習慣に触れる良い機会となりました。また、何気ない日常会話の中からも、モニカの温かい人柄やユーモアセンスが伝わってきて、まるで本当の家族のようにリラックスして過ごすことができました。最終日には、別れを惜しんで挨拶を交わし、いつかまた再会できることを願いました。モニカとの出会いは、私の海外生活をかけがえのない素晴らしい経験にしてくれた、大切な宝物です。

●現地での学び

初めてイギリスに足を踏み入れた時、まず目に飛び込んできたのは、縦に連なった信号機でした。日本では横向きが一般的なので、その違いに少し戸惑いを覚えました。しかし、すぐにその土地の風景に溶け込んでいるように感じ、文化の違いを肌で感じた最初の瞬間でした。

驚いたことの一つに、ストローがどこに行っても紙製だったことが挙げられます。カフェやレストランはもちろん、テイクアウトのお店でもプラスチック製のストローは見かけませんでした。環境問題に対する意識の高さが伺え、日本でももっと積極的に取り組むべきだと強く感じました。最初は少し使い慣れませんでしたが、すぐに抵抗なく使えるようになりました。

交通ルールで特に印象的だったのは、交差点の多くがラウンドアバウト（環状交差点）だったことです。日本のような信号機による交通整理ではなく、ロータリー内を走行する車両が優先されるというルールは、最初は少し混乱しましたが、慣れてくるとスムーズな交通の流れを生み出していることに気づきました。効率的で理にかなったシステムだと感じ、日本の交通システムにも取り入れる余地があるのではないかと考えるようになりました。

街の景観も、日本のそれとは大きく異なっていました。住宅街を歩いていると、赤レンガ調の家が多く、屋根には煙突が備え付けられているのが印象的でした。絵本に出てくるような可愛らしい家並みは、どこか温かみがあり、その土地の歴史や文化を感じさせてくれました。一つ一つの家に個性があり、住む人のこだわりが感じられるようでした。

そして、現地の人々の社交性の高さには驚かされました。バス停で隣に座った人や、お店の店員さんなど、見知らぬ人にも気軽に話しかける人が多く、コミュニケーションを大切にする文化なのだと感じました。最初は少し戸惑いましたが、彼らの明るくオープンな姿勢に触れるうちに、私も積極的に会話を楽しむようになりました。言葉の壁はありましたが、笑顔やジェスチャーを交えることで、意外とコミュニケーションが取れるものだと実感しました。この経験を通して、言葉だけでなく、心を開いて接することの大切さを学びました。

●今後活かしたいこと

今回の海外での経験は、私の帰国後の生活、そして将来にわたって、かけがえのない財産となると思います。ホストファミリーのモニカとの温かい交流を通して、異文化を持つ人々との心の壁を取り払い、積極的にコミュニケーションを取ることの喜びを深く理解しました。モニカの明るくオープンな人柄に触れる中で、私ももっと笑顔を大切にし、周りの人々を温かく迎えられるような人間になりたいと強く思いました。帰国後も、積極的に人に話しかけたり、困っている人がいれば声をかけたりするなど、ささいなことでも行動に移していきたいと考えています。モニカのように、相手の言葉に真摯に耳を傾け、理解しようと努める姿勢も、人間関係を築く上で不可欠であることを学びました。

現地で感じた環境問題への意識の高さは、私の生活にも大きな影響を与えました。紙製のストローや、ゴミの分別に対する意識の高さなど、日本でも取り入れられるべき点が数多くあると感じました。帰国後は、できる範囲でプラスチック製品の使用を控えたり、リサイクルを徹底したりするなど、環境に配慮した生活を心がけていきたいと思っています。また、今回の経験を通して、世界には様々な環境問題が存在することを改めて認識しました。将来は、環境問題の解決に貢献できるような仕事に就くことも視野に入れ、積極的に学びを深めていきたいと考えています。 交通システムにおけるラウンドアバウトの効率性は、固定観念にとらわれず、より良い方法を常に模索する姿勢の大切さを教えてくれました。日本に帰国後も、既存のシステムや考え方に疑問を持ち、より効率的で合理的な方法はないかを常に考える習慣を身につけていきたいです。

また、多様な視点を持つことの重要性も改めて認識しました。異なる文化や習慣に触れることで、自分の考え方や価値観が絶対的なものではないことに気づかされました。今後は、様々な情報に触れ、多角的な視点から物事を捉えるように意識していきたいと考えています。

現地の人々の社交性の高さから学んだのは、言葉の壁を恐れずに積極的にコミュニケーションを

取ることの重要性です。完璧な英語でなくても、伝えようとする気持ちがあれば、相手に伝わることは十分にあります。帰国後も、外国の方を見かけた際には、積極的に話しかけてみたり、ボランティア活動などを通して異文化を持つ人々と交流する機会を増やしていきたいと考えています。

将来的には、今回の経験を活かして、国際的な舞台で活躍できるような人材になりたいという夢も抱くようになりました。そのためにも、語学力の向上はもちろんのこと、様々な文化や歴史、社会情勢についても積極的に学び、グローバルな視野を広げていきたいと考えています。 今回の留学を通して得た経験と学びは、私の人生における大きな転換点となりました。ホストファミリーとの温かい思い出、現地で肌で感じた文化や習慣の違い、そして人々の温かさ。これらの経験を胸に、帰国後の生活をより豊かに、そして将来の夢に向かって力強く歩んでいきたいと思います。

１０　豊野高等学校　　永田　有沙

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、ホストマザーの Monica と猫の Lily でした。Monica はとても外交的で、よく笑う女性です。出会う前は緊張していましたが、その緊張は一瞬で消え、すぐに打ち解けることができました。家では「Make yourself at home」と言ってくれたので、マナーを気にしすぎるよりも、ホストの希望を優先するべきだと考え、常識の範囲内で自分の家のように過ごしました。そのおかげで、とても居心地が良かったです。Monica は毎日私の体調を気にかけてくれ、初日は一緒にバスに乗ってくれました。また、毎朝朝ごはんを作ってくれたり、送り迎えをしてくれたりと、とても親切にしてくれました。学校から帰った後も、その日にあった出来事を話して盛り上がりました。さらに、外食の際には私たちの予算を気にかけ、何度もごちそうしてくれました。私は Monica と、一緒に泊まっていた響姫と一緒に、PRIMARK などのお店が立ち並ぶ街へ出かけました。そこでは、Monica が知り合いと何度もすれ違い、そのたびに挨拶をしていました。一年ぶりに会う知り合いから、今週会う約束をしていた友達まで、次々と知り合いに出会い、Monica の人脈の広さに圧倒されました。

●現地での学び

私にとってあっという間だった 10 日間のイギリス派遣は、多くの学びを得る貴重な経験となりました。小学生の頃にアメリカで暮らしたことがあり、英語でのコミュニケーションにはそれほど不安はなかったものの、初めて訪れる国での生活には緊張もありました。しかし、引率の先生方や現地の学生、ホストファミリー、そして仲間たちの支えのおかげで、とても充実した時間を過ごし、多くのことを学ぶことができました。そのなかでも、特に私が学んだことは二つあります。

一つ目は、勇気を出して積極的に行動することの大切さです。私はもともと内向的で、新しいことに挑戦するのが苦手でした。そのため、これまで多くの貴重な経験のチャンスを逃してきたと感じています。今回の派遣に参加したのも、そんな自分を変えたいという思いがあったからでした。しかし、事前研修の頃の私はまだ積極性がなく、仲の良い人としか話せませんでした。ところが、現地では英語を話せる環境にいることで、自分が別人になったように外交的になれました。それでも初日は自分から話しかける勇気が出ませんでした。そこで学生さんたちと過ごして英語を話したいと思いました。私は昼食の時間で席をわざと空けて座りました。そこで Jacob や Janis、Amelia が座ってくれてランチを共にすることが出来ました。そんな私を変えてくれたのが彼らです。彼らは毎日会うたびに話しかけてくれ、話しかけるのが苦手な私でも会話を続けることができました。彼らのおかげで少しずつ自信がつき、他の学生や先生方にも話しかけられるようになりました。アフタヌーンティーでアメリアと話せなかったので別れる時に「もっと話したかった」と伝えたら、アメリアから連絡が来て「学校が終わったら時間ある？」と聞かれて一緒に出かけることになりました。自分の気持ちを伝えられて良かったと思いました。さらに、派遣団の仲間ともできるだけ英語で話すよう心がけました。

二つ目は、人とのつながりを大切にする姿勢です。日本では、他人にあまり干渉しない文化がありますが、それが時に人との距離を生む要因になっているのではないかと感じています。イギリスでは、道ですれ違う人と挨拶を交わし、ドアを開けて待ってくれるのが当たり前でした。電車の中では知らない人同士が自然に会話を始め、くしゃみをすると誰からでも「Bless you」と声をかけてもらえます。私はこうした文化がとても素晴らしいと思いました。イギリスの人々の姿勢は単なる「礼儀」ではなく、「人と関わることを楽しんでいる」ように感じました。

この経験を通じて、私は「積極的に行動する勇気」と「人とのつながりを大切にする姿勢」の重要性を学びました。これからもこの学びを生かし、より積極的に人と関わることを楽しんでいきたいと思います。

●今後活かしたいこと

イギリスでの経験を通じて学んだ「積極的に行動する勇気」と「人とのつながりを大切にする姿勢」を、日本での生活や将来にも生かしていきたいと考えています。

まず、日本での生活においては、自分から積極的に人と関わることを大切にしたいです。日本では、知らない人に話しかける機会は少なく、私は近所の人でさえ挨拶をすることができませんでした。そして、日常生活でのコミュニケーションも必要最低限になりがちです。学校でも、授業以外で先生と話す機会は限られ、友人関係も特定の人とばかり話してしまうことが多いと感じます。しかし、イギリスでの経験を通じて、ちょっとした挨拶や会話が人とのつながりを深めることを実感しました。イギリスでは、通りすがりの人が気軽に「Hi」と声をかけたり、店員さんと客が雑談をしたりするのが当たり前でした。こうした文化に触れ、自分ももっと周りの人とのコミュニケーションを大切にしたいと思いました。さらにアルバイトやボランティア活動を通じて、さまざまな人と積極的に関わる機会を持ちたいです。日本では、自分からそうした環境に飛び込むことで、視野をより広げることができると考えています。また、買い物やカフェで店員さんにお礼を伝えたり、地域のイベントに参加して知らない人とも会話したり、ちょっとした褒め言葉を交わすことで、日常の中で少しずつ人との関わりを増やしていきたいです。こうした行動を積み重ねることで、日本にいながらもイギリスで感じた温かいつながりを広げていきたいと思います。また、将来の目標としては、国境を越えてさまざまな人と関わる機会を持ちたいと考えています。私は将来、語学を生かせる仕事に就きたいと考えていますが、そのためには語学力だけでなく、異なる文化や価値観を持つ人々と積極的に交流し、相手の考えを理解しようとする姿勢が重要です。イギリスでの経験は、その第一歩となりました。現地の学生と話していると、同じ英語を話していても、表現の仕方や会話のテンポ、考え方に違いがあることに気づきました。その違いを理解しようと努めることで、より深いコミュニケーションが取れるようになると感じました。今後も、日本にいながらでも外国人の方と積極的に関わる機会を持ち、視野を広げていきたいです。例えば、留学生と交流したり、異文化理解に関するイベントに参加したりすることで、日本にいても異文化の考え方やコミュニケーションの違いを学ぶことができます。学校や地域で開催される国際交流イベントに参加し、積極的に異文化に触れる機会を増やしていきたいです。また、オンラインでも海外の人と交流できる場があるため、そうしたツールを活用しながら、自分の世界を広げていきたいと思います。さらに、英語を使う環境を自ら作ることも、大切な学びの一つだと感じました。イギリスでは、英語を話すことが日常の一部であり、それが自然と自信につながっていました。日本では英語を使う機会が限られていますが、自分から積極的に英語を使う

環境を作ることで、イギリスでの経験を無駄にしないようにしたいです。私は今まで英語の動画を見たり、英語の本を読んだりして英語力を維持する努力をしてきました。これを続け、日常的に英語に触れる習慣をつけたいと考えています。また、英語で日記を書いたり、SNS で英語を使ったりと、英語を使うことに慣れ、表現の幅を広げていきたいです。

今回のイギリス派遣を通して、私は自分が変わることができたと実感しました。実際に私は日本に帰国してからもアメリアやモニカと SNS を通じて連絡をとり、文通も始めました。最初は消極的だった私が、BSDC の学生たちと積極的に会話し、新しい環境にも適応できるようになりました。この経験を大切にしながら、これからも積極的に行動し、人とのつながりを大切にしながら、新しいことに挑戦し続けていきたいです。

１１　杜若高等学校　　近藤　美空

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーはホストマザーのオルガ・ロウェさんでした。オルガさんは派遣生を 3 人も受け入れているのにも関わらず、家での生活を優しくリードしてくれました。あるモールを訪れた時に、出入り口の横にホームレスの方が座っていました。オルガさんは、その人にお金をあげていました。とても優しい方なんだなと思いました。この優しさは他のところでもみられました。例えば、私たちがバスを乗り間違えてしまった時には、すぐに迎えにきてくれて、謝ろうとしても雰囲気が悪くなるから何も言わなくていいと言ってくださいました。更に、私たちに楽しい思い出や経験をさせてあげようと、予定にはなかったロンドンまでも連れて行ってくださいました。

また、オルガさんはロシア出身の方で発音が少し異なっていたり、朝食に米に林檎を乗せたものを出してくれたりと、イギリスとはまた異なる文化を体験させてもらいました。高校生の私には勿体無いくらいの経験をさせていただき、感謝してもしきれません。

●現地での学び

私は今回の派遣で、現地で馴染めるような英会話力を高めることを目標に挑みました。そのため、たくさんの外国の方とコミュニケーションを取ることを意識して生活しました。私のホストマザーや TMUK の担当の人など、様々な人が私たちに英語を聞き取ることができるように、ゆっくり丁寧に話をしてくださいました。そのため、自分たちも積極的に聞く姿勢を取り、かつ、自分からも話す姿勢を取りやすくなりました。最終日には大まかな英語を聞き取れるようになっていて、たったの１２日間でこんなにも上達するという驚きと、嬉しさを感じました。

実際に過ごしてみて、コミュニケーションを取る上では、相手の趣味や得意なことなどを聞き出すことが大切だと感じました。BSDC の学生さんと話している時にアニメやアーティストの話で盛

り上がりました。これだけでも楽しく会話はできましたが、話すネタに物足りなさも感じ、どうすればもっと話を展開できたのだろうかと考えた結果、あらかじめ教科書やインターネットからの知識を蓄えておこうと思いました。そうした結果、より話を広げやすくなり、会話が弾みやすくなりました。

また、相手の文化や背景を理解する姿勢も大切だと思いました。どういう歴史の背景があってどういう結果に至ったのかなどをあらかじめ調べておいて、知識と現実を比較し、そこから学んだものも多くありました。例えば、大きなギャップを感じたのは食文化で、イギリスは産業革命の影響で女性や子どもまでも労働に従事しなければならず、調理に時間や手間をかける余裕すらなかったそうです。そのため、手の込んだ料理よりも、安くて満腹になることが重視されるようになったと言われています。この歴史的背景から、現代のイギリスの料理はあまり美味しくないとされてしまっています。しかし、実際に料理を食べてみて、ほとんどの料理が美味しかったです。特にフィッシュアンドチップスやシェパードパイはもう一度食べたいと思うほど美味しい料理でした。

●今後活かしたいこと

BSDC では、写真撮影の体験をしました。カメラを借りて写真を撮ったり、交代でモデルになって写真を撮ってもらったりしました。そこで照れてしまってなかなかポーズを取れない私に、「Don't be　shy！」と学生さんが言ってくれました。確かに照れながら撮られた写真よりも、堂々となりきって撮られた写真の方が、見ていて面白く素敵なものになっています。日本人は「大和撫子」という言葉があるように、少しおとなしいくらいの方が褒められることが多い育てられ方をする様に思いますが、大きな表現やはっきりした発言など、適材適所で使えるように、自分を変えていきたいと思いました。

ホストマザーと過ごす時間では、白鳥に餌をあげに湖に行ったりするなど、たくさんお散歩をしました。その中で驚いたのが、すれ違う老若男女がみんなフレンドリーに話しかけてくれたことです。「どこから来たの？」「楽しんでる？」というような、あいさつの様なものかもしれませんが、笑顔で声をかけてもらえたときはとても嬉しく感じました。日本ではすれ違う人と会釈などの軽い挨拶をすることはあっても、知らない人に話しかけることはまずありません。しかし、これからは海外の人を見かけたときに、「Enjoy？」や、困っていそうなら「May　I　help　you？」と積極的に声をかけたいと思います。そして、その海外の人の、「日本の良い思い出」になれ

たら、嬉しいです。

私は、BSDC の学生さんやホストマザーと、たくさん話したり、聞いたりして、積極的にコミュニケーションを取るようにしました。同じホームステイ先のメンバーが 3 人だったこともあり、日本語ばかりになってしまってはいけないと思い、「バスの中では英語縛りで会話しよう」と提案して、皆で意識して英語漬けになるように、努力もしました。そのおかげか、夢の中でも、英語を使っていました。学校のテストで記入する英語とは違い、英語を言葉として意識して使うことの大変さや楽しさを学ぶことができました。

今日、日本でもグローバル化が進んでおり、外国語が必要な場面が増えてきています。最近、放射線技師として働いている従姉妹が、一部の医療機器は英語で指示の入力をしなければならず、英語が苦手な彼女はとても苦労したと話していました。また、ニュースで社内の共通語が英語で、会議や書類も英語を使用する企業もあることを知りました。英語が身近に浸透してきていると思いました。

私は看護師になるという夢をもっています。そこで、外国人の患者さんに接したときに、医療英語もしっかりと身につけて、日本語がわからず不安に思っている患者さんに安心感を与えられるようになりたいです。さらに経験を積んだ後、国境なき医師団や青年海外協力隊など、海外で活躍する看護師を目指したいと考えています。

１２　豊田大谷高等学校　　光岡　絵麻

●ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、母の Lisa、娘の Jamie、Evie、息子の Alfie の 4 人でした。Lisa は仕事で忙しい中、毎日イギリスの伝統的な家庭料理を作り、観光地にも連れて行ってくれました。彼女は家族の団らんの時間を大切にしていて、夜は一緒に食事をしながらその日の思い出を共有しました。Jamie は和食や抹茶などの日本文化が大好きな女の子です。休日に一緒にお寿司を作ったことは、私にとって大切な思い出です。Evie は離れた地域の学校に通っているため、直接会うことはできませんでしたが、ビデオ通話をしました。Alfie はとても優しい男の子です。休日には Lisa と一緒に Alfie のラグビーの試合を観に行きました。全力でプレーする姿がとてもかっこよかったです。素敵なホストファミリーに囲まれて、たくさんの思い出を作ることができました。私を温かく受け入れてくれたホストファミリーには心から感謝しています。

●現地での学び

今回の派遣は私にとって初めての海外経験でした。英語での飛行機の搭乗手続き、箸を使わない食事、初対面の人たちが気さくに会話している光景。そのすべてが新鮮で、まるで別世界に来たかのように感じました。イギリスに到着し、初めてホストファミリーと対面する時には、「自分の英語が通じるだろうか」ととても緊張していました。でも、ホストマザーが明るい笑顔で迎えてくれたことで、その緊張は一気にほぐれ、とても安心したのを覚えています。

滞在中、私の英語力が飛躍的に伸びたと実感できた出来事がありました。それは、アメリカ人の留学生が同じ家に滞在することになったことです。一緒に生活をする中で自然と仲良くなれたのはとても嬉しかったのですが、同時に、自分の思いをうまく言葉にできないもどかしさから、自信を失いかけたこともありました。イギリス英語とアメリカ英語、両方を聞き取るのは想像以上に難しかったです。けれど、この経験を通して、「自分の英語で伝えられる限りのことを、精一杯伝えたい」という気持ちが強くなり、次第に会話が楽しくなっていきました。そして、少しずつ自分らしさも表現できるようになっていきました。

滞在中、特に印象に残っている出来事は、ホストファミリーと一緒に手巻き寿司を作ったことです。イギリスでは生魚を食べる文化があまり一般的ではないため、野菜を使って作りました。食べる時に、ホストファミリーから「フライドオニオンをかけてみて」と勧められ、試してみたところ、とても美味しくて驚きました。日本では味わえない、イギリスならではの手巻き寿司はとても新鮮でした。異国の地で、日本の食材や道具を使って手巻き寿司を作り、みんなで囲んで食べた時間は、本当に特別なものでした。日本の料理がイギリスでも受け入れられていると実感できて、誇らしい気持ちになりました。どの瞬間を切り取っても、最高の思い出と言える、かけがえのない 12 日間でした。

●今後活かしたいこと

私はこの 12 日間の派遣を通して「チャレンジすることの面白さ」を知りました。今回が初めての海外経験だったため、すべてが新たな挑戦であり、自分自身と向き合う貴重な機会となりました。実際に現地を訪れて、日本で得た情報やインターネットの内容とは違うイギリスのリアルな文化や生活を体感することができました。

たとえば、食文化について驚きがありました。日本では「イギリス料理は美味しくない」というイメージが定着しています。しかし、実際にイギリスの家庭料理を食べてみると、どの料理もとても美味しいものばかりでした。こうした発見も、自ら足を運び、体験するからこそ得られるものだと実感しました。

また、通学時にタクシーが来ず、困ってしまったことがありました。イギリスでは珍しいことではありませんが、私にとっては大きなトラブルであり、自分一人でどう判断すべきか迷い、焦ってしまいました。この経験から、「一人で決断する勇気と自信」の必要性を痛感しました。そしてそのためには、普段から自分の意見や考えをしっかり持つことが大切だと学びました。

さらに、現地で「外国人」として家庭やすでに形成されたコミュニティに入っていくことの難しさも体感しました。だからこそ、今後日本で困っている留学生や観光客がいたら、積極的に手を差し伸べたい、優しく見守りたいという気持ちが強くなりました。同時に、それを実現するためにも、助けられるだけの語学力を身につけなければならないと感じました。

滞在中はうまくいかなかったことや、悔しい思いをした場面も多く、「もっとこうしていれば…」と今でも反省する点がたくさんあります。しかし、そのすべてが今後の自分を支えてくれる成長の糧になると信じています。この経験から自分は少し強くなり、視野も広がったと感じています。

私は以前から語学や異文化に関心を持っていましたが、今回の経験を通して「今後も語学を学びたい」という思いが強くなりました。今後は、国際イベントボランティアや豊田市の国際交流事業などにも積極的に参加し、イギリスをはじめとした海外とのつながりを大切にしていきたいです。

今回の派遣でたくさんの新しいことにチャレンジし、その楽しさを知ることができました。これからも、興味のある分野や新しいことに前向きに取り組み、自分自身の手でさまざまな経験を重ねていきたいと思います。

引率教諭　豊田西高等学校　　後藤　次郎

1. 生徒引率について

ダービーシャーまでの移動と滞在について、引率者として感じたことをまとめます。

プログラム初日は中部国際空港に 13 時集合だったため、電車や保護者の送迎、豊田市駅からの高速バスなど、生徒それぞれの事情に応じた手段で、余裕を持って集合できたのではないかと思います。香港空港での約 6 時間の乗り継ぎ時間には、生徒たちはいくつかのグループに分かれ、空港内を散策したり、ベンチで談笑したりと、親睦を深める貴重な時間となりました。飛行機内でも座席は隣同士で、長時間のフライトもリラックスして過ごせたようでした。昨年度の話を伺った限りでは、名古屋駅に早朝集合し新幹線で移動していた点を考えると、今回は移動の負担が軽減されたと感じました。また、ロンドン市内の観光はありませんでしたが、ホストファミリーと過ごす時間が大幅に増え、プログラムの目的から考えると意義のある変更だったと思います。イギリスへの直行便がないため乗り継ぎは避けられませんが、金曜の昼に集合し、土曜の朝に現地到着、そのままホストファミリーと週末を過ごすというスケジュールのおかげで、その後も心身ともに余裕を持って滞在できました。

滞在中、大きなトラブルや体調不良もなく過ごせたことは、引率者として何よりありがたいことでした。参加生徒の心構えや自己管理への意識、問題解決に向き合う姿勢に、心から感謝しています。当初は前年度までの報告書を参考に、生徒の健康管理チェックを実施する予定でしたが、家庭での困りごとはホストファミリーに相談する、体調や日程に関することは引率者や関係スタッフに自ら申し出るという方針のもと、あえて様式による健康チェックは行いませんでした。その代わり、生徒一人ひとりの体調や家庭での様子を対面でこまめに確認するよう心がけました。幸いなことに、特段の問題もなく全員が無事に滞在を終えられたのは、参加生徒の努力に加え、同行してくださった豊田市役所多様性社会共創課の近藤さんをはじめとして、BSDC のスタッフの皆様、ホストファミリーの皆様の細やかなサポートとご配慮のおかげです。改めて心より感謝申し上げます。また、派遣生徒数が例年より少なかったこと、複数名を受け入れてくださったホストファミリーが多かったこと、引率教員自身も生徒と同じ家庭に滞在したこと、さらに天候が安定していたことも、日程が順調に進んだ大きな要因だったと感じています。

2. 生徒の取組について

滞在中、生徒の取組において特に感心した点を二つ取り上げます。

一つ目は、コミュニケーションへの積極的な姿勢です。事前研修での英語講義では、生徒同士に遠慮が見られ、全体的に控えめな印象を受けていました。研修を重ねてもその雰囲気は大きく変わらず、やや不安もありましたが、いざ現地プログラムが始まると、登校初日からどの生徒も驚くほど積極的に BSDC の学生やスタッフと会話を交わしていました。ジョン先生による英語の講義、アフタヌーンティーの調理やテーブルセッティングの実習、Creative Media Workshop での写真撮影実習、情報処理専攻の学生との文化交流など、BSDC での活動では、どの生徒も受け身になることなく、自ら積極的に学生や教員と関わりを持ち、有意義な時間を過ごしていました。

二つ目は、お世話になった方々の前で堂々と発表とスピーチができたことです。これは当初の予

定にはなく、カルチャーショー直前に急きょ決まったものでした。生徒たちは、ホストファミリーや BSDC の学生・スタッフの前で、豊田市の文化や特徴を紹介し、さらにダービーシャー滞在中に感じたことを英語でスピーチしました。緊張しながらも、一人ひとりが自分の言葉で堂々と発表する姿に、心から感動しました。発表後には、聴いていた多くの方から温かい反応をいただき、安心すると同時に誇らしい気持ちにもなりました。たくさんのネイティブスピーカーの前で英語のスピーチを行うという経験は、生徒たちにとって、今後の英語学習や学校生活に活かされる貴重な体験となったことだと思います。積極的にコミュニケーションを取ること、人前で資料や写真を使って発表することは、多くの高校で重視されている学習活動です。今回のプログラムを通して、生徒たちは日頃の学びの成果を十分に発揮してくれました。普段の生活の中で英語を使う機会は限られていますが、学校の授業や個人の努力、そして支えてくださった多くの方々のおかげで、素晴らしい経験が実現したことに深く感謝しています。

3. 姉妹都市交流について

英国トヨタ自動車工場およびダービーシャー県庁の訪問では、豊田市との深いつながりを感じる場面が多くありました。TOYOTA の看板が掲げられた工場では、現地の人々の手によって馴染みのある車が生産されており、課題を発見し、改善に取り組む社員の方々の姿にも大いに刺激を受けました。ダービーシャー県庁では、Kemp 議員の歓迎を受けた後、職員の方に庁舎内を案内していただきました。これまでに豊田市から訪問された方々の足跡も各所で見受けられ、姉妹都市交流の確かな歴史を実感しました。

私が滞在したホストファミリーは、過去にも本事業の生徒やアジアからの留学生を受け入れてきた家庭で、アルバムに綴られたたくさんの写真や、ホストの名前を漢字で記したお土産、日本のお菓子や調味料など、これまでの交流の温もりが感じられるものばかりでした。今回の滞在も温かく感動的なものとなり、お互いにとってかけがえのない思い出となりました。豊田市とダービーシャーの姉妹都市交流は、年月を重ねて地域の暮らしや社会に深く根ざし、人的・文化的にも大変有意義な活動になっていると実感しました。

4. 終わりに

令和 6 年度ダービーシャー高校生派遣事業の引率教員として、参加生徒の皆さんと共にさまざまな交流を経験することができて大変嬉しく思います。今回のプログラムが無事にその目的を果たすことができたのは、参加生徒の普段からの努力と、現地での積極的で柔軟な姿勢、そして周囲で支えてくださった多くの方々のご協力のおかげです。

この姉妹都市交流を通じて、国を越えて人とつながり、温かな関係を築くことができ、双方にとってかけがえのない交流体験となりました。生徒の皆さんには、今回得た経験をぜひ周りの方々と共有し、学校や地域へと還元してくれることを期待しています。

英語感想文

Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in English

Akito Kawakami

During my stay in the UK, what impressed me the most was the food culture. I have allergies to beef and milk, so I was nervous before my first homestay. I worried about whether I could explain my allergies clearly and not trouble my host family. However, they listened carefully and said, “Don’t worry, we’ll prepare meals that are safe for you.” They paid attention to the ingredients and cooking, and I felt very thankful and supported. At school, the cafeteria also offered meals for people with allergies, vegetarians, and vegans. I was touched by how naturally people accepted different food needs. It wasn’t treated as something special it was just normal. This experience made me realize how the UK has adapted to a diverse food culture. I was deeply moved by how people welcomed those differences with kindness and respect. I also hope to make use of this experience and become someone who can respect diverse values in everyday life.

Nanami Murase

My best experience is Homestay. At first, I was very nervous because it was my first time to stay with a local family, but I was able to have a great time thanks to the kindness of my host mother. During my homestay, she taught me not only about herself but also the history of the UK and the differences between the UK and Japan. Also I was surprised that British people have a custom of drinking tea and eating sweets every day. It was a wonderful time and I wish we had such a custom in Japan. I’m very grateful to my host mother for giving me nice experiences. I was able to improve my English skills by communicating with BSDC students, my host mother, and my friends. In the future, I want to make the best use of this experience to become a person who can contribute in various places. I will never forget my experiences in the UK.

Kokowa Yamano

I learned a lot during this homestay. I went to a lot of places and had a lot of fun. During my homestay, I was given tea every day and was treated very kindly by my host family. I was also very happy to be able to talk to many students at the university. In the creative classes I took there, I took photos in many different places, and I was impressed

by the facilities at the university. What impressed me about England was the large number of wild animals and the cityscape lined with brick houses. I was also surprised by the different types of rises and the staples food, potatoes, which are different from those in Japan. I also noticed that it was different from Japan in that if you put a large trash bin in front of your house, a company will come and collect it. I am very happy to be able to participate in this assignment.

Aine Fujisawa

What strikes me most is the difference in the way we eat rice. My host family served me rice once, and I was very surprised then. First, it was Thai rice and very dry. Second, the rice was mixed with oranges, grapes, carrots, and tomatoes. I was really surprised by the fruity rice. I also heard that another host family put sweet apple, like jam, on rice and ate it. I was very impressive to see how they ate rice, which is completely different from the way we Japanese eat rice. I was quite interesting. In addition, I was impressed by the buildings. Many buildings were made of brick. In Japan, there are many new buildings, but in England, there are many old-fashioned buildings. My most memorable building was the church in Litchfield, which was especially beautiful with its stained glass. I was very impressed with the care taken with the old-fashioned buildings.

Motoki Sato

This was my first time going abroad, so I was very anxious. However, once I arrived, everyone was very kind, and I naturally started to feel less anxious. There were times when I couldn't understand what the other person was saying, but there were also times when I could grasp the mood of the conversation. I'd like to share this nerve-wracking but valuable experience with my family and friends.

Miu Suzuki

What impressed me the most during this training was the British food culture. The reason for this is that there are significant differences from the Japanese food culture. For example, potatoes were served at every meal. Not only beef, pork and chicken, but also other kinds of meat were eaten. A lot of fruits were eaten and, on the contrary, there was no soup at all. In addition, many dishes were easy to eat because they were not greasy and didn't contain many carbohydrates, unlike in Japan. It is also impressive for me that on-street parking is not illegal. In the UK, you can't park your cars on the streets with double yellow lines. So, you are allowed to park your cars on almost all streets without double yellow lines. The lack of parking spaces in the UK societies is one of the reasons why they set such a rule. In this program, I understood many kinds of differences between Japan and the UK. We should try to know more about each other. I'm sure that's the key to realize more peaceful world in the future.

Yuzuho Fujitani

There were two things that impressed me during my time there. First, I found recycled boxes everywhere. I thought the U.K. valued recycling. Because I found it at my host family's house and outside. There were many around Burton and South Derbyshire College. It is so good for the environment. It would be better if they did it in Japan, too. Although there was still some trash, I think it was a good idea to install trash cans. By doing so, I think I can contribute to the environment in a different way. Second, I got nice communication. I like to talk someone. But I was nervous to talk with my host family in English. When I met them, they were very kind and easy to talk to. So, I thought all British people were friendly. But my host family said ''it is wrong.''. For example, in London, no one greets anyone who passes by. So, I felt that I was glad to come to the Derby.

Yuna Yamamoto

One of the most impressive things I noticed in the UK was how friendly and warm everyone was. No matter whom they were talking to, they always greeted each other with a smile and were very kind. I saw this at cafes, shops, and even on the streets. It made me realize how important it is to show kindness to others, no matter who they are.

I could feel their warmth not just in their words but also in their actions. This kindness made me feel welcomed, even though I was a stranger there. I also noticed that they often talked to strangers, which we don't often see in Japan. This experience reminded me of even small acts of kindness, like smiling or showing interest to others, can make a big difference in creating a positive atmosphere.

Hibiki Ishikura

One of my most memorable experiences was mealtime at BSDC. I was surprised by the unique containers they used for food, which were unlike anything I had seen before. The tableware was also notably wooden, which I appreciated as an environmentally friendly choice. Interestingly, the seasoning of the food was milder than I expected, often resembling Japanese flavors. Another highlight was my first time going to McDonald's after school. Ordering was a new experience as it was done through a touch screen instead of verbally. Although I was a bit confused by the English on the screen, the food was delicious, and it turned out to be a fun cultural experience.

Ultimately, all the experiences I had in the UK were incredibly valuable and will undoubtedly enrich my future. I hope to use what I learned to become a bridge between Japan and the UK in the years to come.

Arisa Nagata

What left the biggest impression on me during this stay was definitely the accent. The pronunciation and intonation were different from the American English we learn at school, so at first, I had a hard time understanding. I sometimes couldn't tell whether someone was asking a question or making a statement. I was also surprised by how people in England greet each other. While walking, everyone I passed said hello, and even children riding their bikes would say thank you politely when we made way for them. Their manners were impressive and made me feel warm inside. In terms of scenery, I was surprised that many of the houses looked similar and that the shape of the electrical outlets was completely different from those in Japan. The most difficult thing for me was the custom of wearing shoes inside the house. The only place I could take off my shoes was on the bed, so I felt uneasy and restless. Another thing that stood out was how punctual

the trains were. I had thought people in the UK were more relaxed about time, so I was surprised by how precise everything was. This experience gave me a deeper understanding of British culture and inspired me to keep improving my English.

Misora Kondo

I’d never experienced homestay before, so I was very nervous. But because my host mother talked to me gently, I was able to enjoy everything. She took me to many places. What impressed me was that all the people I passed by were friendly and many people talked to me. In Japan, it is not common to talk to strangers out of the blue. They talked to me with a smile, so I was able to have a fun conversation without being nervous. Also, it is often said that British dishes are not good, but it is not true, and there were many delicious dishes such as fish and chips and shepherd pie. I'm glad that I was able to try a lot of food. In this way, learning about other cultures, not dictionary, was a very valuable experience.

Ema Mitsuoka

There were two things that particularly impressed me during this dispatch. First, my awareness of my weakness for English conversation has decreased. At first, I thought I had to speak perfectly, and I would think of sentences in my head before speaking. However, when I talked with my host family, I realized that simple English is used in daily conversation more than I had expected.I could talk with them using easy expressions and gestures. Conversation became much more enjoyable. The second is the consideration for vegans. There were special seasonings for vegans in the cafeteria and ice cream stores had vanilla and chocolate flavors for vegans as of course. I was very surprised to see that culture, which is unfamiliar in Japan, is respected as a matter of course in the UK. These 12 days helped me grow and gave me new insights. I will continue to study English and do my best so that I can go abroad again.

Jiro Goto

1. Travel and Student Support

We flew from Chubu Centrair International Airport, changed planes in Hong Kong, and arrived at Manchester Airport. Because we met at the airport in the afternoon, students had enough time to come using trains, buses, or by car with their families. During the 6-hour wait in Hong Kong, students relaxed, walked around in groups, and became closer to each other. The trip was easier than in past years because we didn't need to gather early in the morning or use the bullet train. Although we didn't visit London, students had more time with their host families, which was good for the goals of the programme. Arriving on Saturday morning and spending the weekend with host families helped everyone adjust well. Thankfully, there were no big problems or health issues. Instead of using health check forms, we spoke directly with each student to check how they were feeling. The success of this trip was thanks to the students' efforts and the kind support from Toyota City Hall staff, BSDC staff, and the host families. Also, the small number of students, good weather, and helpful host families made the trip smooth and safe.

2. Students' Efforts

I was especially impressed by two things. First, the students' positive attitude in speaking English. Before the trip, many were shy during English lessons. But once in the UK, they spoke actively with BSDC students and staff from the first day. They took part in classes, tea-making, photography, and cultural exchange activities with confidence. Second, they gave great speeches during the cultural show, even though it was a last-minute plan. They talked about Toyota City and shared their thoughts about staying in Derbyshire. Even though they were nervous, they spoke clearly and in their own words. The audience was very happy, and I felt proud of them. This experience will help them with future English learning and school life.

3. Sister City Exchange

We visited Toyota Motor Manufacturing UK and Derbyshire County Council. At the factory, we saw cars we know being made by local workers and learned how they work to solve problems. At the council building, we were welcomed by a local councillor

and shown around. We also saw signs of past visitors from Toyota City, which showed the long history of this friendship. My host family had accepted students in the past and had many souvenirs and photos from Japan. Their warm welcome made the stay very special, and it became a wonderful memory for both sides. The sister city relationship has grown over time and now supports strong, friendly connections between people and communities.

4. Conclusion

I'm very happy I could join this programme with the students. It was a great experience. The students' hard work, their positive attitude, and the support from many people helped make it a success. Through this programme, we learned the value of meeting people from other countries and making warm connections. I hope the students will share their experience with others and use what they learned in school and in the community.

ダービーシャー高校生派遣事業資料

ダービーシャー高校生派遣事業

回	年　度	学　生		計
		男	女	
1	平成 26 年（2014 年）度	4	１２	１６
2	平成 27 年（2015 年）度	3	１３	１６
3	平成 28 年（2016 年）度	4	１２	１６
4	平成 29 年（2017 年）度	5	１０	１５
5	平成 30 年（2018 年）度	2	１３	１５
（６）	平成 31 年（2019 年）度	（８）	（８）	（１６）
		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、派遣中止（事前研修等の準備は実施したが、出発前に派遣中止を判断）		
–	令和２年（2020 年）度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、派遣中止		
–	令和３年（2021 年）度	4	１１	１５
		派遣代替事業として BSDC の学生を含む英国在住者とのオンライン交流事業を実施		
6	令和４年（2022 年）度	6	１０	１６
7	令和５年（2023 年）度	5	１０	１５
8	令和６年（2024 年）度	2	１０	１２
	計（平成 31 年度含む）	**４３**	**１０９**	**１５２**

Golden Days Abroad in Derbyshire
姉妹都市ダービーシャーを訪ねて 2025

第８回ダービーシャー高校生派遣　帰国報告書
編集・発行：豊田市　地域活躍部　多様性社会共創課
〒471-0034　豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター2 階
℡0565-34-6963　e-mail: kokusai@city.toyota.aichi.jp